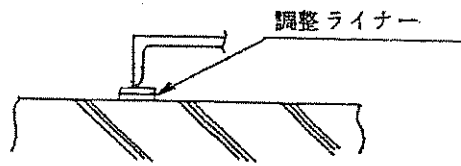
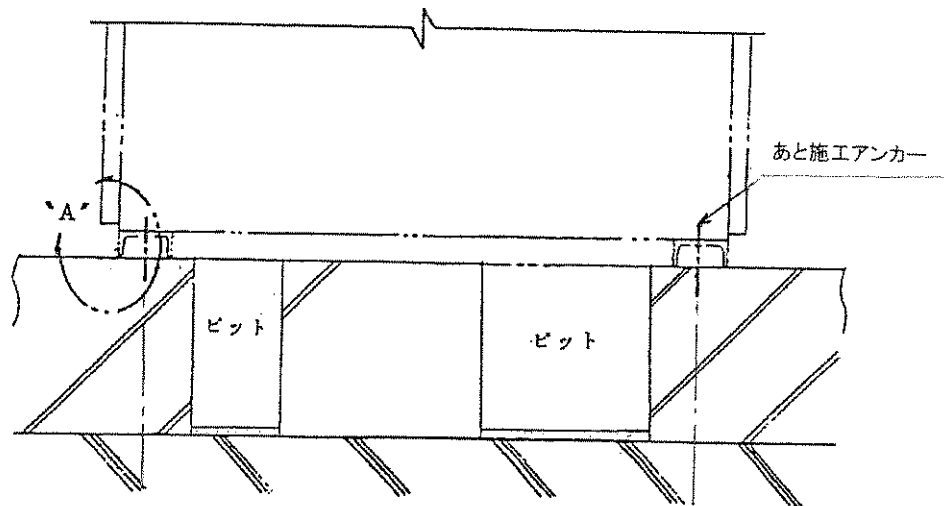


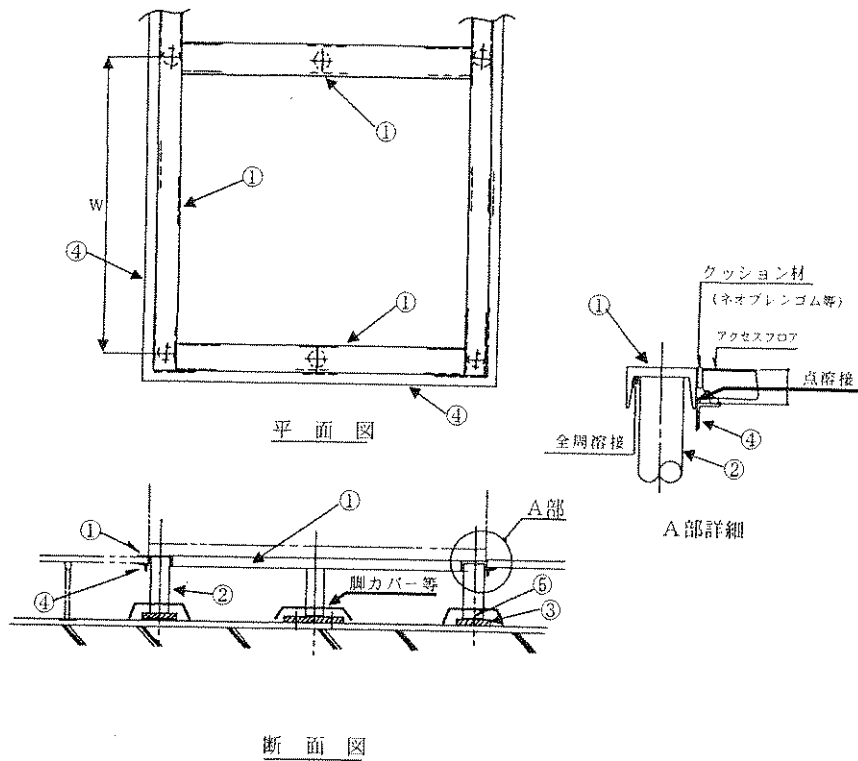
第3章

参 考 图



"A" 部詳細

<p>特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主回路用と制御回路用に各々必要な幅のピットを設ける。 2. 遮断器などの引出しスペース及び点検スペースを確保する。 	<p>図面名称</p>	<p>高低圧盤等コンクリート 床上据付図 (屋内設置の場合)</p>
	<p>図面番号</p>	



番号	使用部材	番号	使用部材
①	[100×50×5t以上	⑤	あと施工アンカー-M12以上
②	STK400 60.5φ×3.2mm以上		
③	PL200×100×6t以上		
④	L40×40×5t		

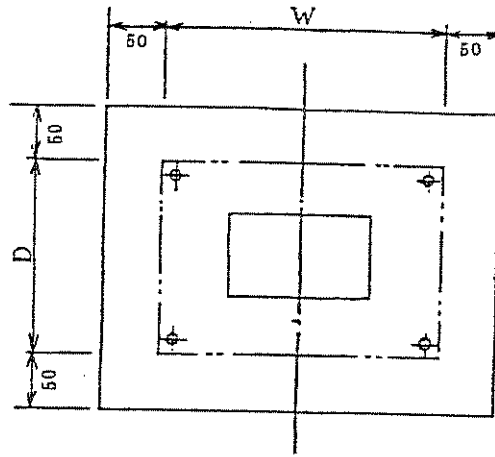
特記事項

1. Wは2面の盤幅寸法以下とする。
2. 脚数及び架台構造は、床荷重及び積載荷重を考慮して決める。

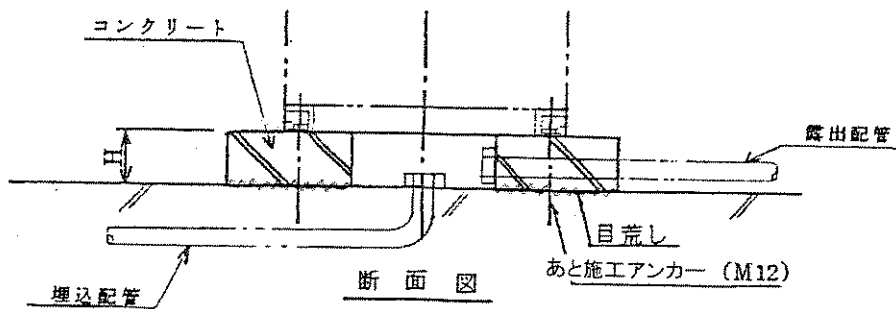
図面名称

高低圧盤等
アクセスフロア上
据付要領図

図面番号

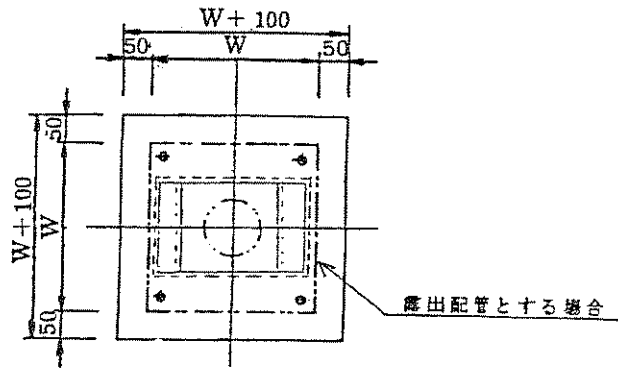


平面図

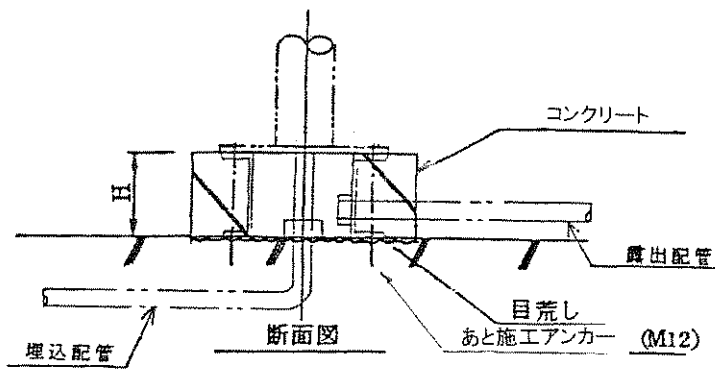


断面図

特記事項	図面名称	動力制御盤等 (自立型) 床スラブ上据付要領図
	図面番号	



平面図



断面図

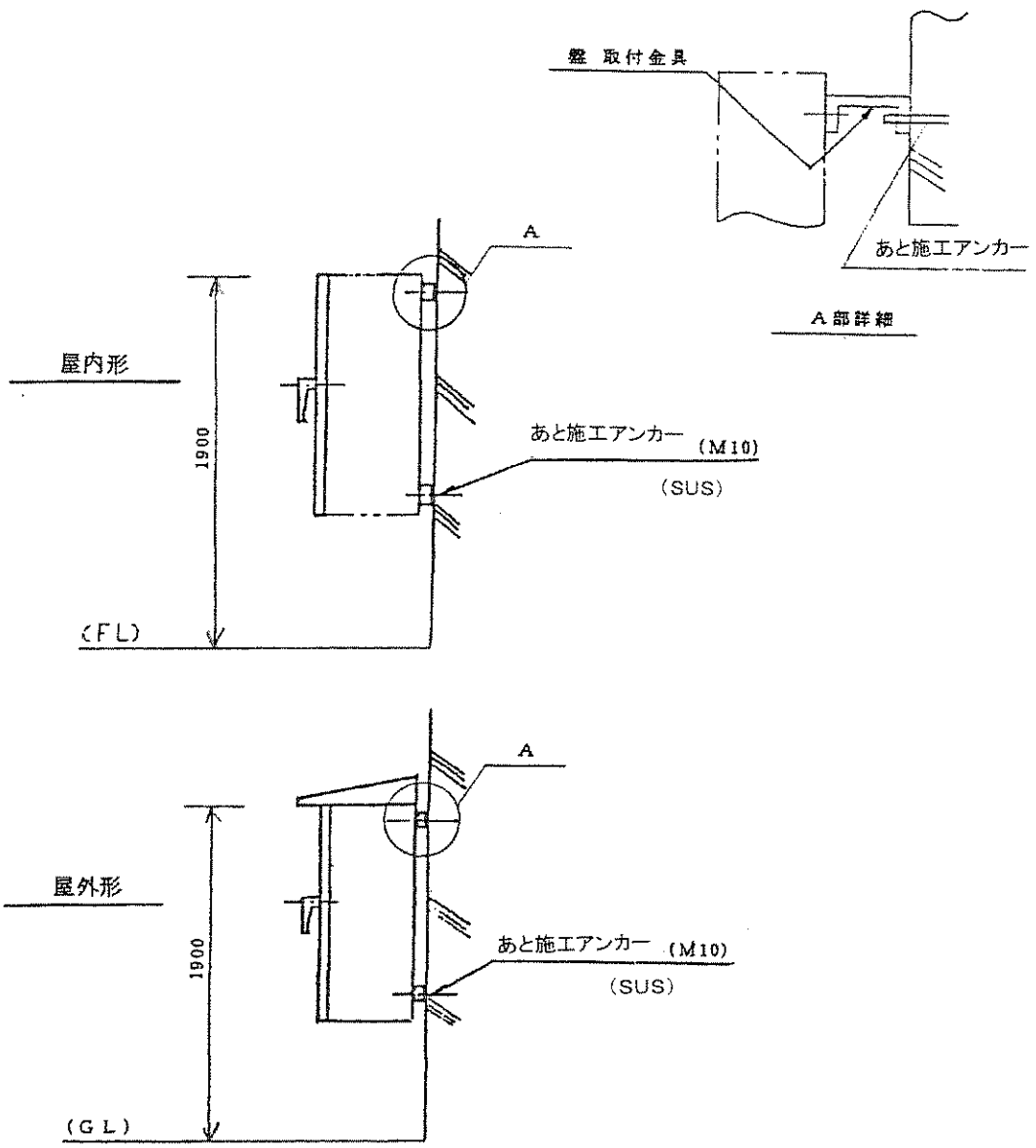
特記事項

1. 盤の据付に支障のない場合は、電線管引込方向は、PL2. 3tを使用する。
2. 鋼材は「H」に合わせたものを使用する。
3. 本図は、無筋コンクリート床がある場合を示す。

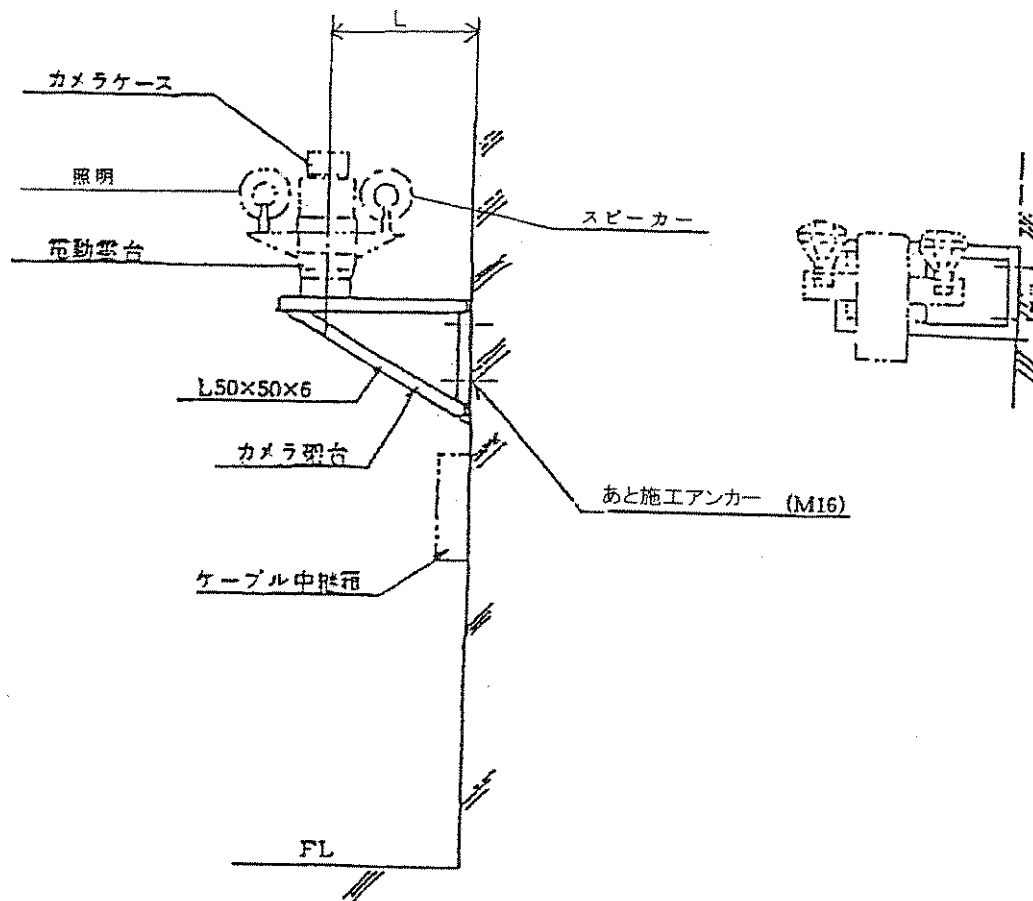
図面名称

動力制御盤
(スタンド形)
据付要領図
(床スラブ上据付の場合)

図面番号



<p>特記事項</p> <p>1. 屋外及び屋内の地階等で壁面に漏水の恐れのある場所は壁面より浮かして取付ける。</p>	図面名称	壁掛形盤据付図
	図面番号	



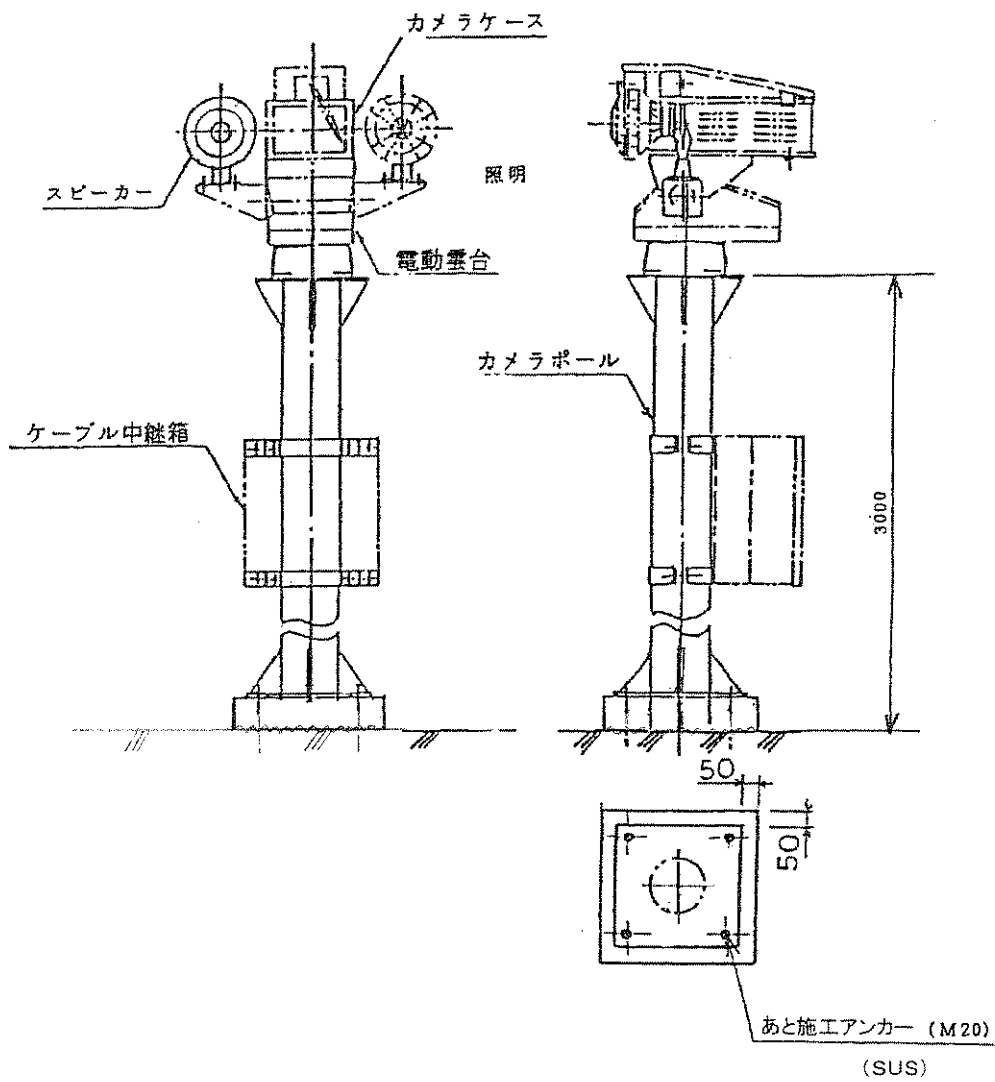
特記事項

1. カメラ架台は、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ35)
2. ケーブル中継箱を設ける場合は、下記のとおりとする。
 - (1) ITVとの距離は3m以内とする。
 - (2) 取付位置は点検できる位置とする。
3. 「L」は、施工図により決定する。

図面名称

ITVカメラ取付け図
(屋内カメラの場合)

図面番号



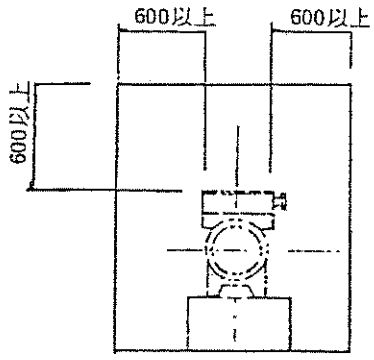
特記事項

1. カメラポールは、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ35)
2. カメラとケーブル中継箱との距離は3m以内とする。

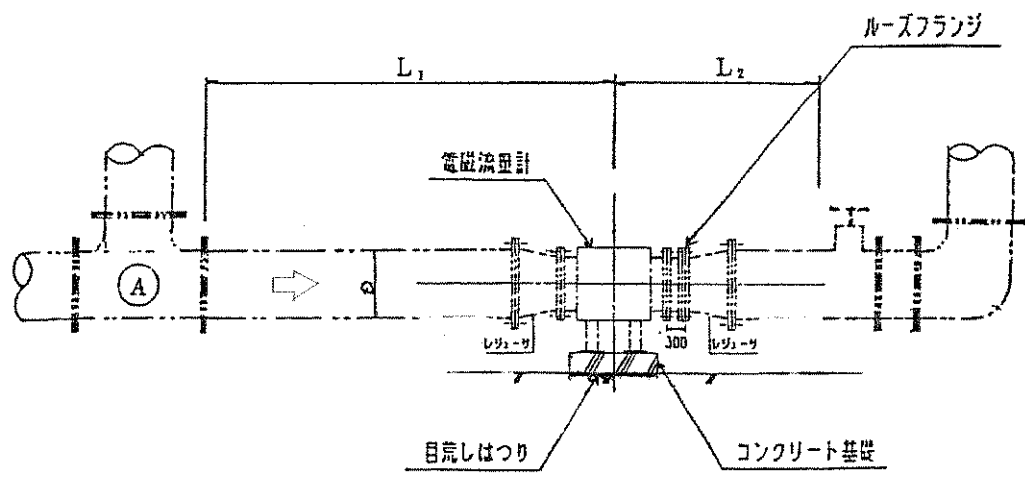
図面名称

ITVカメラ取付図
(屋外カメラの場合)

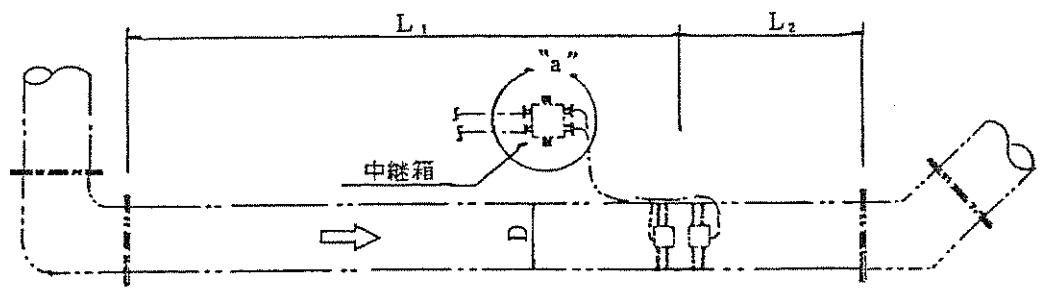
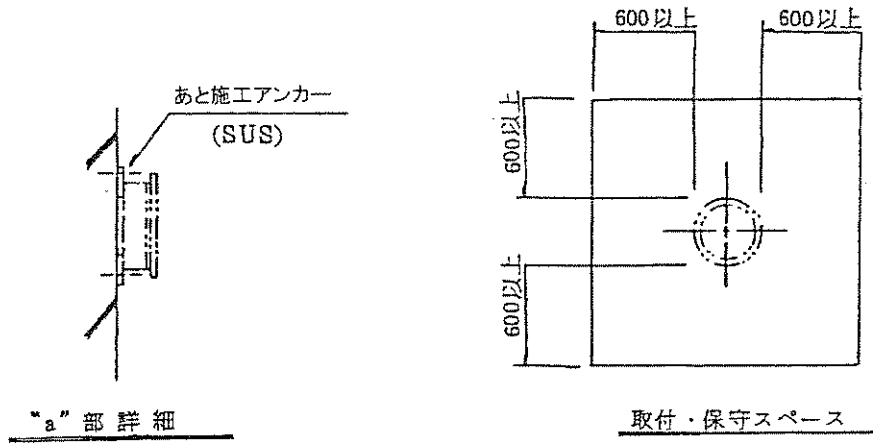
図面番号



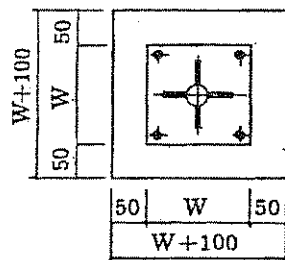
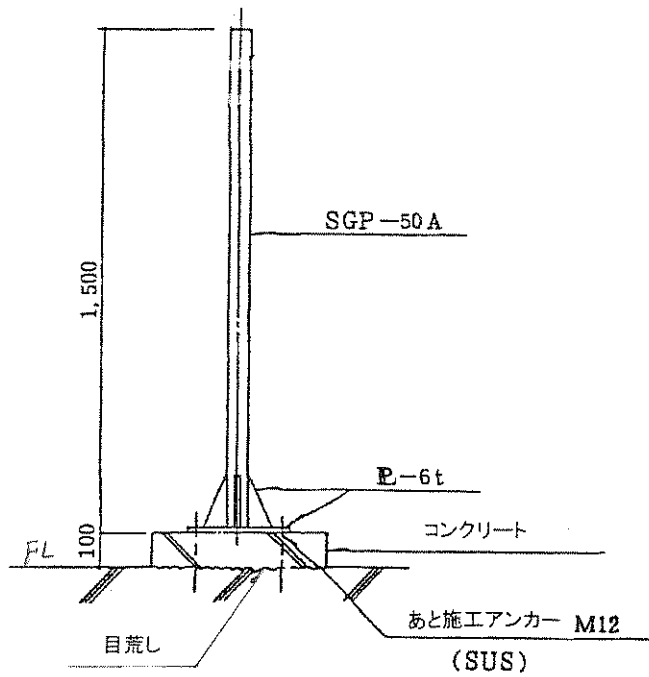
取付・保守スペース



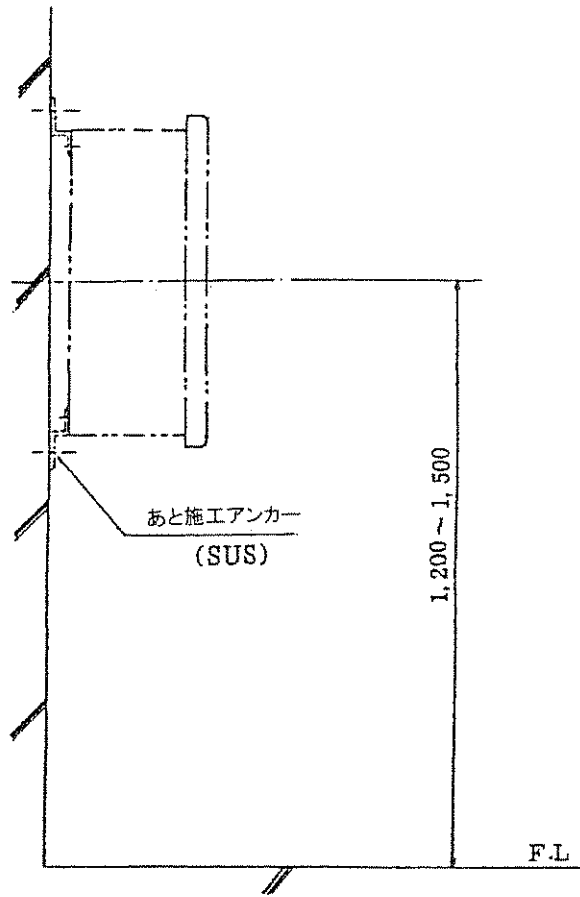
<p>特記事項</p> <p>1. L1は5D以上、L2は2D以上の直管部の長さとする。</p> <p>なお、機種により上記直管部長さを必要としない場合はこの限りでない。</p> <p>2. 口径が大きく重量のある検出器は、その重量を単独で支持する。</p>	<p>図面名称</p>	<p>電磁流量計 据付図</p>
	<p>図面番号</p>	



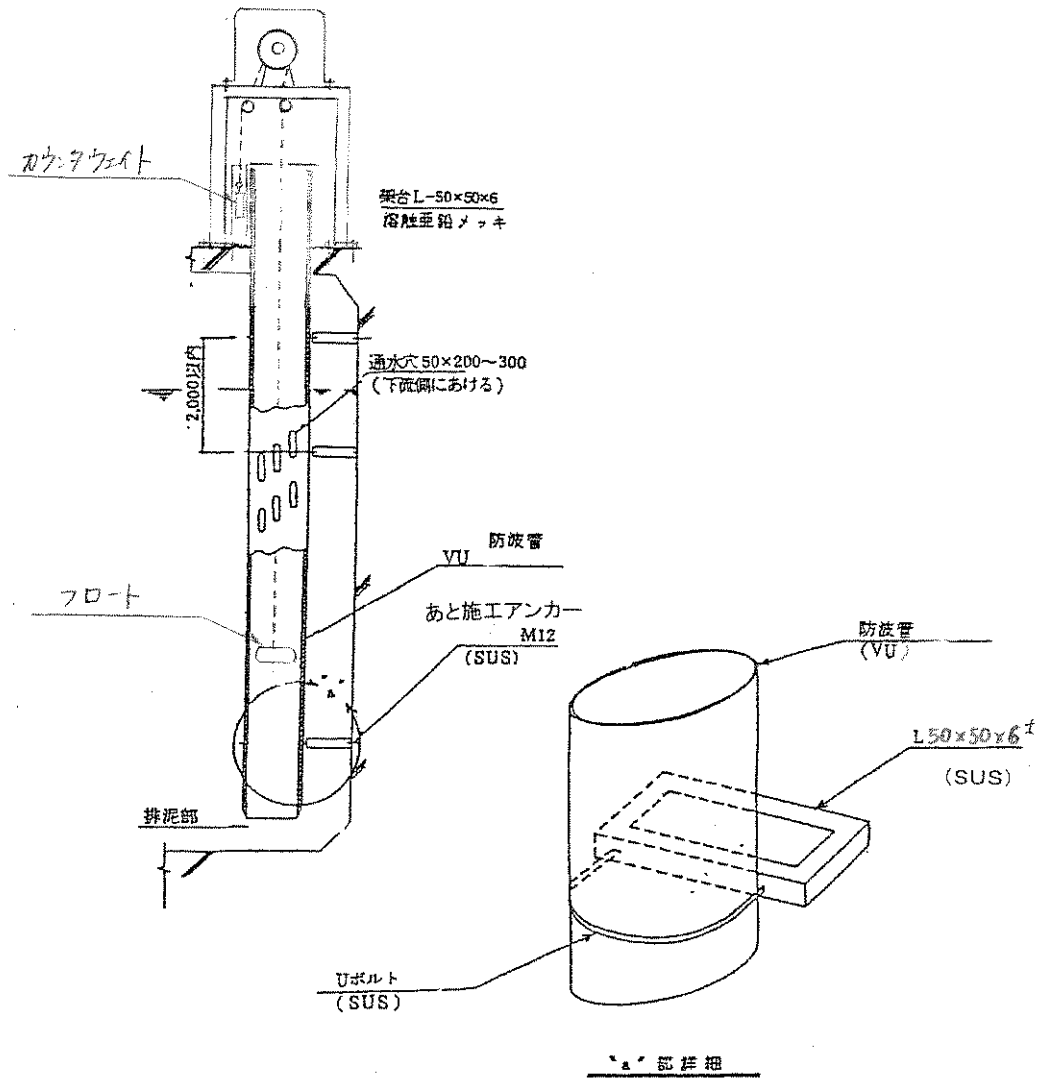
<p>特記事項</p> <p>1. L_1は10D(ポンプ出口50D、バルブ30D)、L_2は5D以上の直管部の長さとする。</p> <p>2. 測定管内には、流体が満管となるように設置する。</p>	図面名称	超音波流量計 据付図
	図面番号	



特記事項 1. パイプスタンドは、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ35)	図面名称	パイプスタンド 据付要領図
	図面番号	



特記事項	図面名称	変換器 壁面取付図
	図面番号	



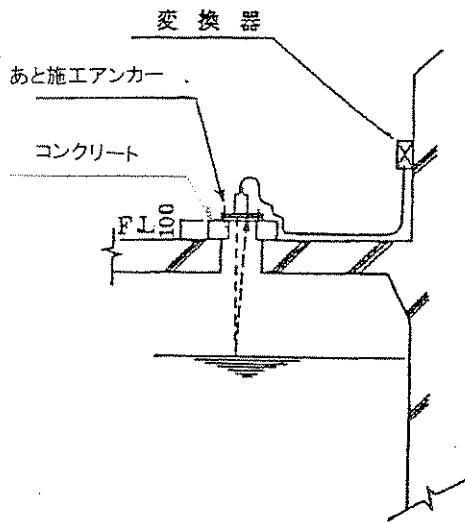
特記事項

1. 防波管の底部には、フロート脱落防止金物を設ける。
2. カウンタウエイトは、管径100mm以上のVU管で保護する。
3. 発信器は、溶融亜鉛めっきを施した鋼製架台上に据え付ける。
(HDZ 35)

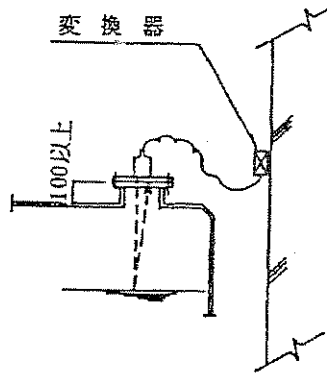
図面名称

フロート式水位計
据付図

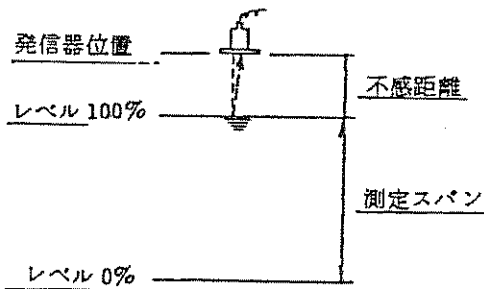
図面番号



一般の場合



タンク等の場合



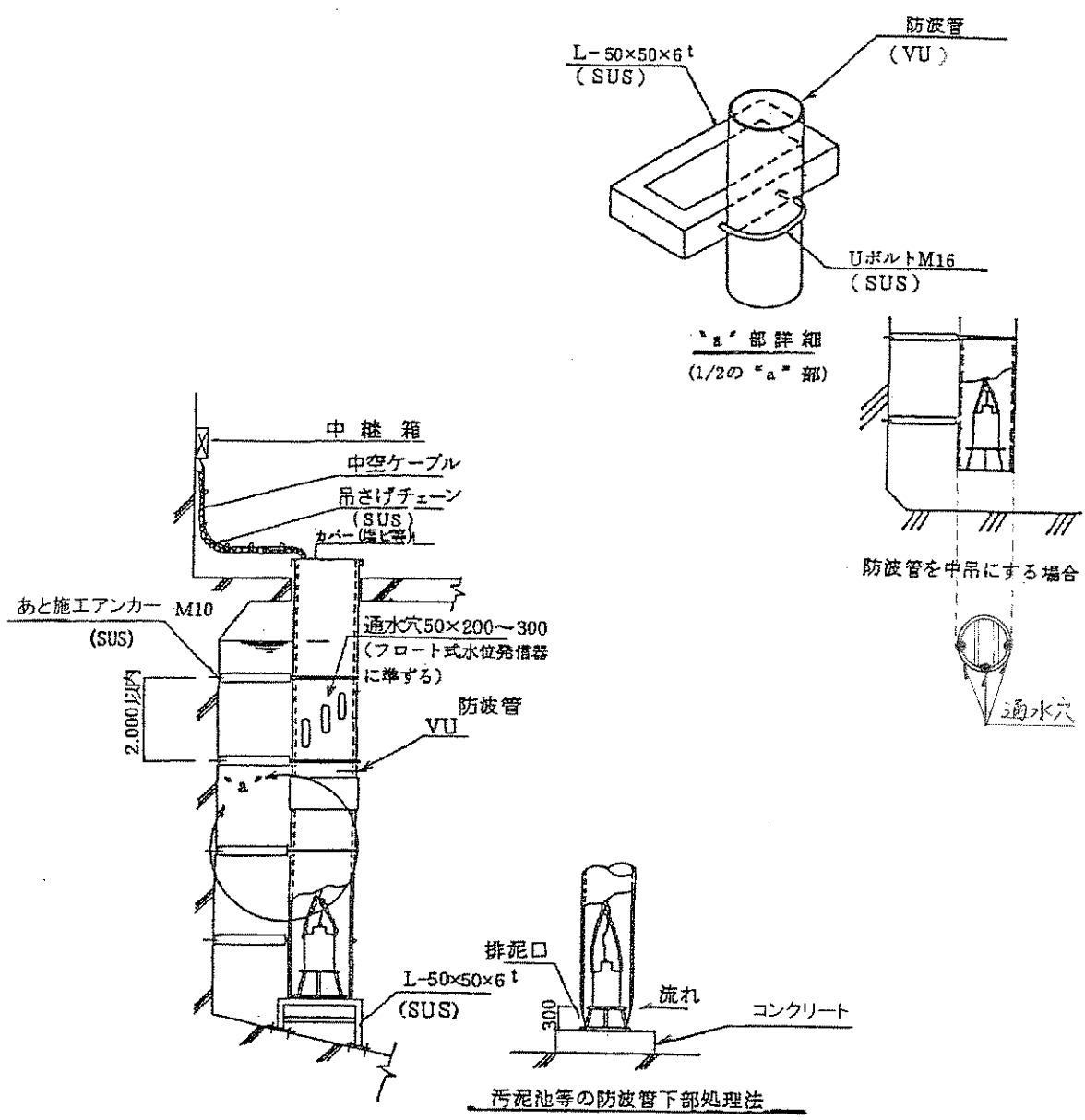
特記事項

1. 不感距離を満足すること。
2. 検出器は水平に取付け、機械的振動が少ない場所に設置する。

図面名称

超音波式レベル計
据付図

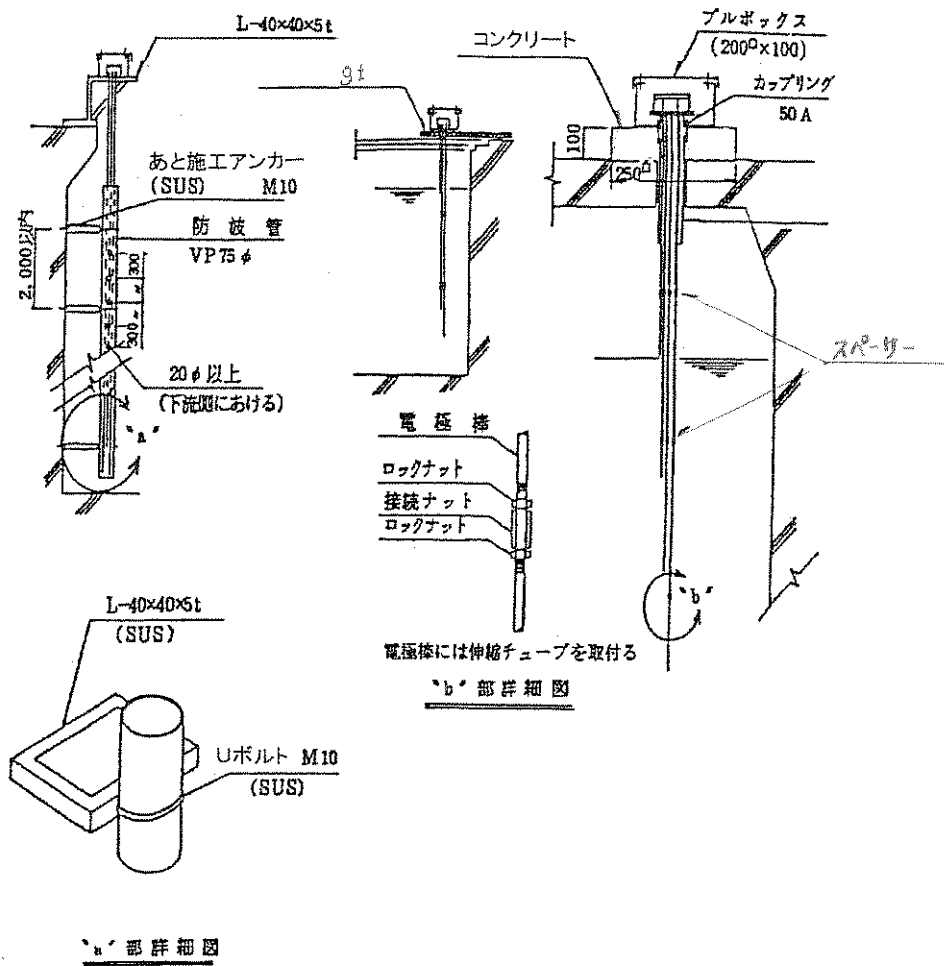
図面番号



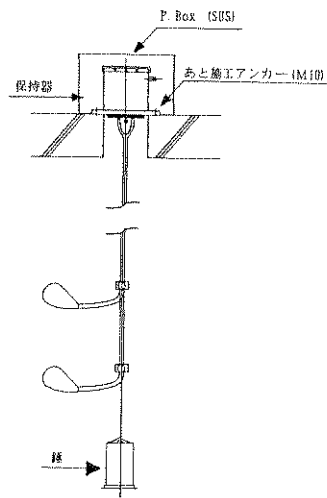
特記事項

1. 防波管のサイズは、水位発信器の大きさに合わせる。
2. 防波管の底部には、発信器落下防止金物を設ける。

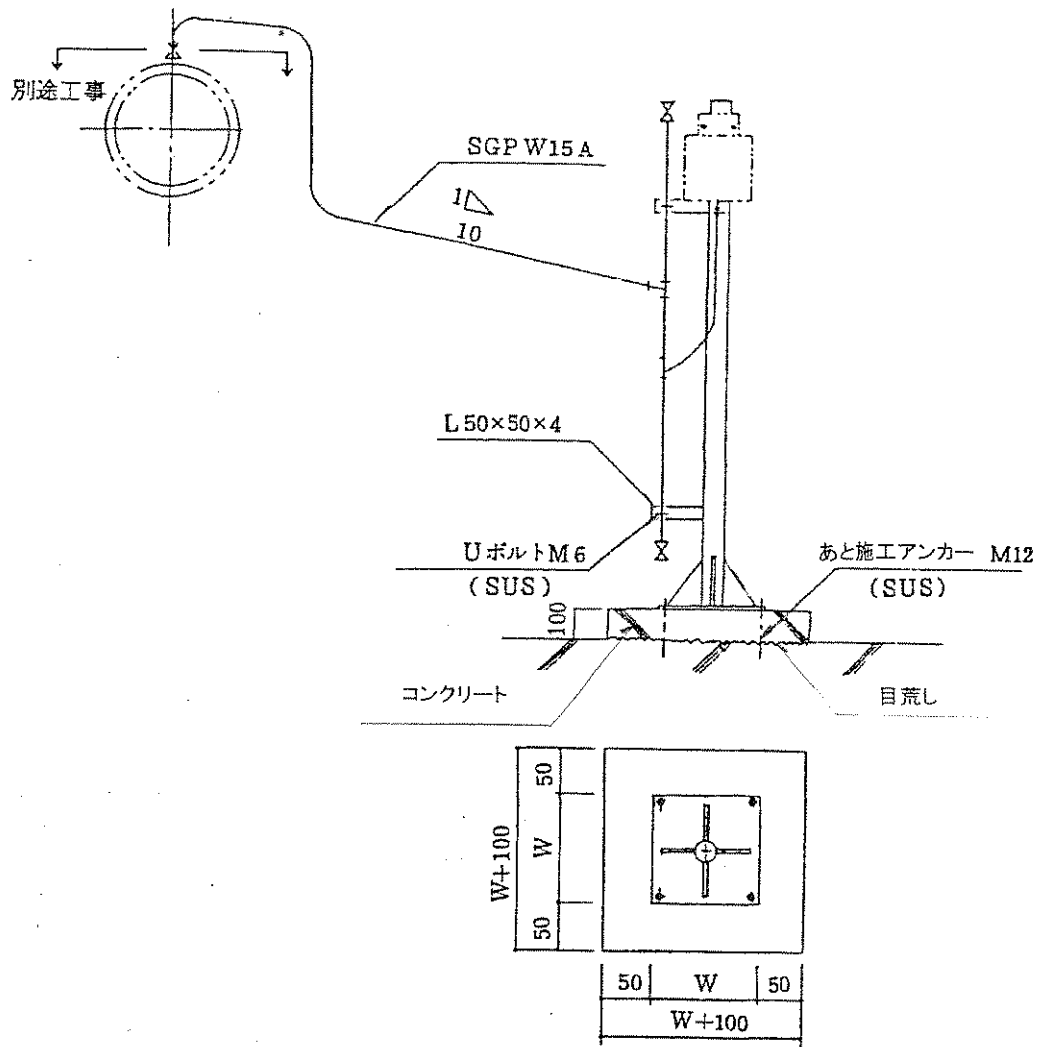
図面名称	投込み式レベル計 据付図
図面番号	



特記事項 1. 電極ホルダー取付架台は、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ35)	図面名称	電極式レベル計 据付図
	図面番号	



特記事項	図面名称	浮子転倒式レベル スイッチ据付図
	図面番号	



特記事項

1. パイプスタンドは溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ 35)

図面名称

圧力計
据付図

図面番号

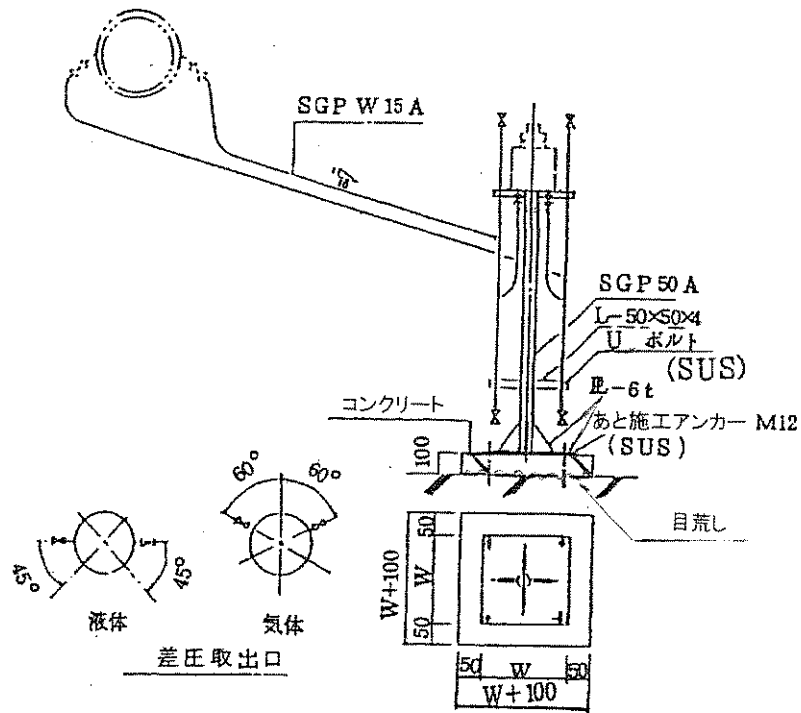
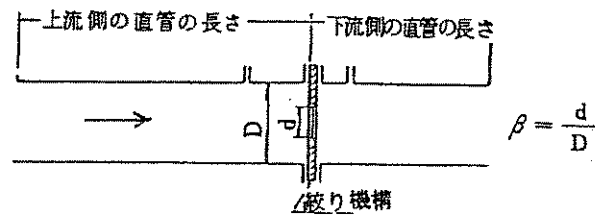


図 1



特記事項

1. パイプスタンドは、溶融亜鉛めっきを施す。(HFDZ 35)

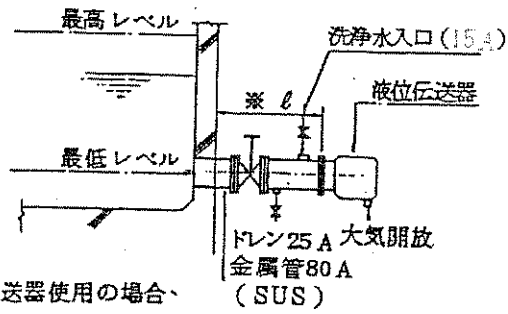
図面名称

差圧式(オリフィス)
流量計据付図

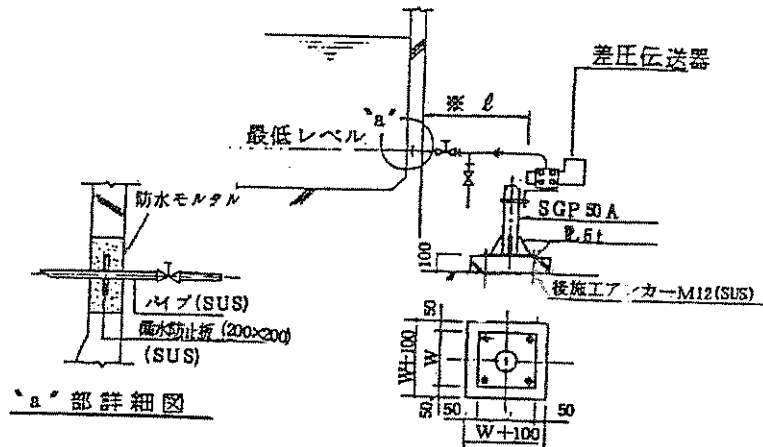
図面番号

開放タンク

1. フランジ取付の場合



2. 差圧伝送器使用の場合



※ℓ寸法：500以下(極力短くする)

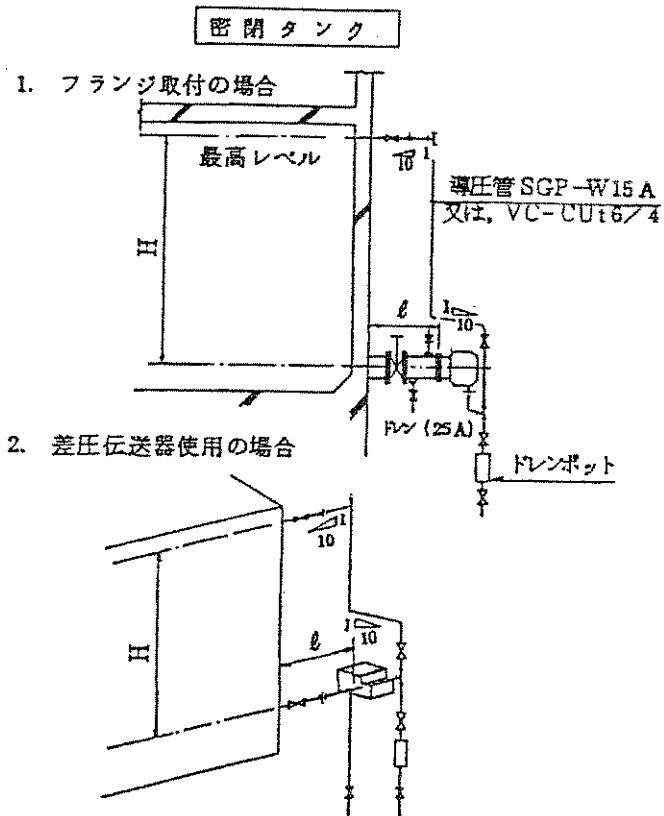
特記事項

1. パイプスタンドには、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ 35)
2. フランジ取付形の伝送器は、必要により支持台を設ける。

図面名称

差圧式レベル計
据付図
(1/2)

図面番号



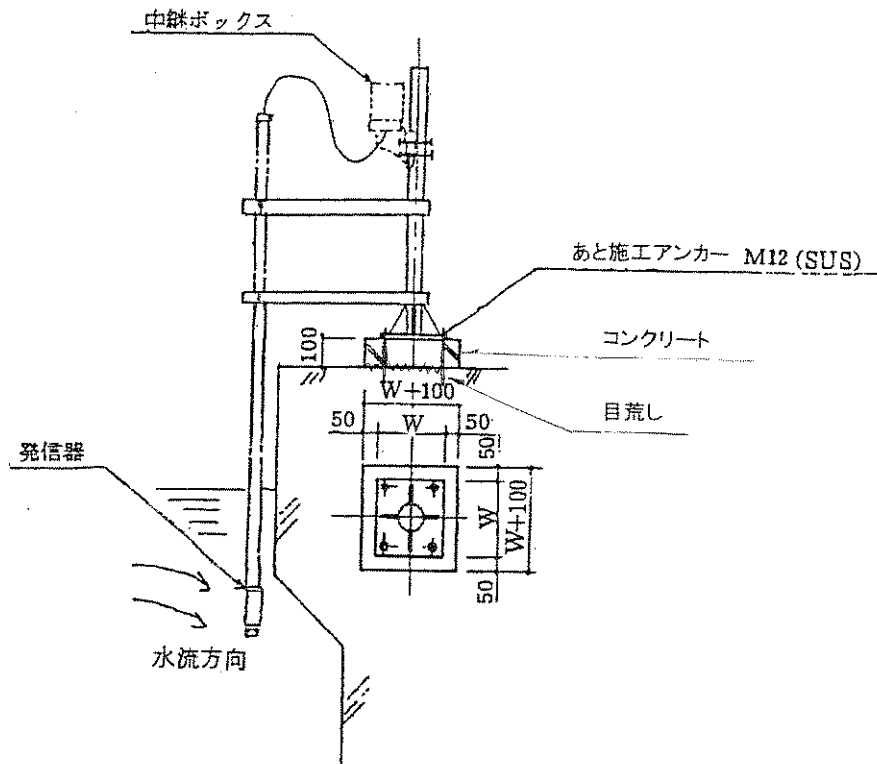
特記事項

1. パイプスタンドには、溶融垂鉛めつきを施す。(HDZ 35)
2. フランジ取付形の伝送器は、必要により支持台を設ける。

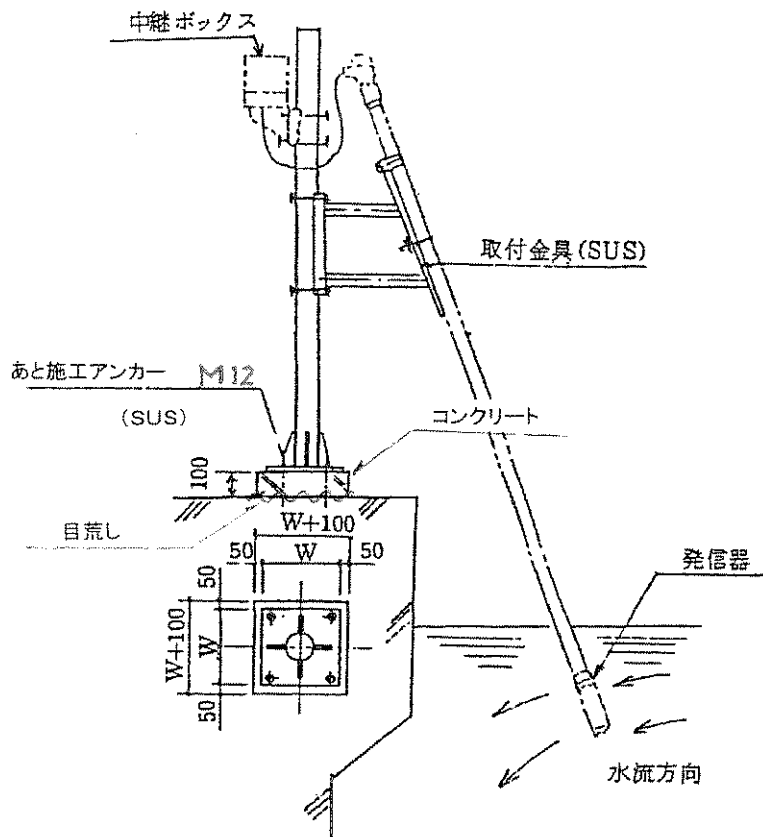
図面名称

差圧式レベル計
据付図
(2/2)

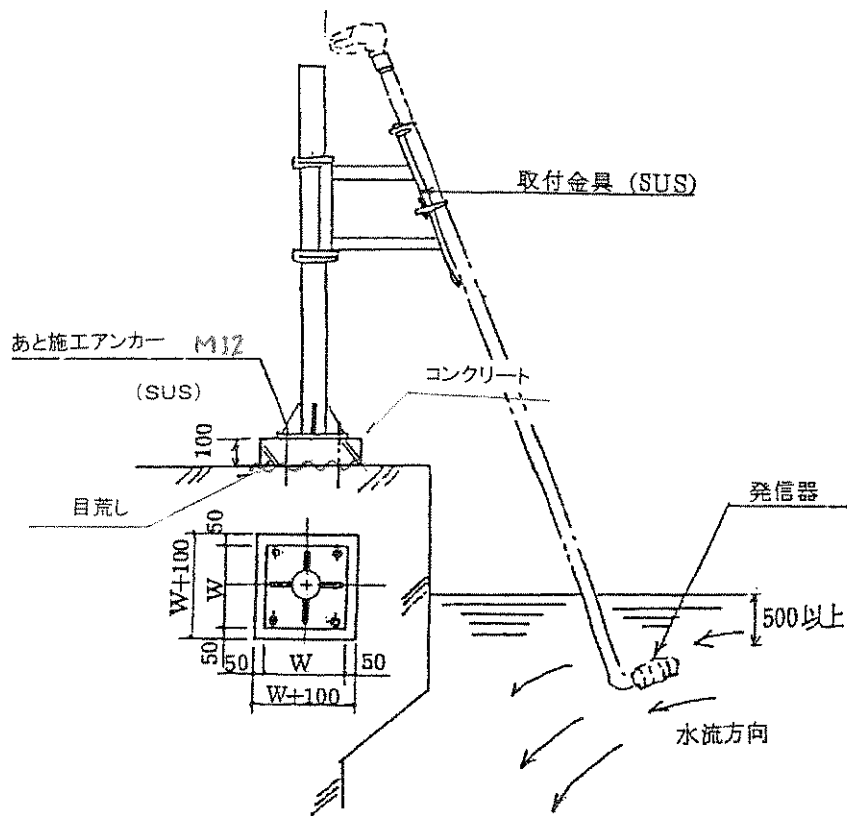
図面番号



<p>特記事項</p> <p>1. 発信器の取付位置を移動することがあるので、専用ケーブルの長さを考慮する。</p> <p>2. 手すり越しの取付けについては、保守点検時の取り外し及び取付けが容易な構造とする。</p> <p>3. パイプスタンドは、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ35)</p>	<p>図面名称</p>	<p>pH計 据付図</p>
	<p>図面番号</p>	



<p>特記事項</p> <p>1. 発信器の取付位置を移動することがあるので、専用ケーブルの長さを考慮する。</p> <p>2. 手すり越しの取付けについては、保守点検時の取り外し及び取付けが容易な構造とする。</p> <p>3. パイプスタンドは、溶融亜鉛めっきを施す。(HE Z35)</p>	<p>図面名称</p>	<p>DO計(浸漬形) 据付図</p>
	<p>図面番号</p>	



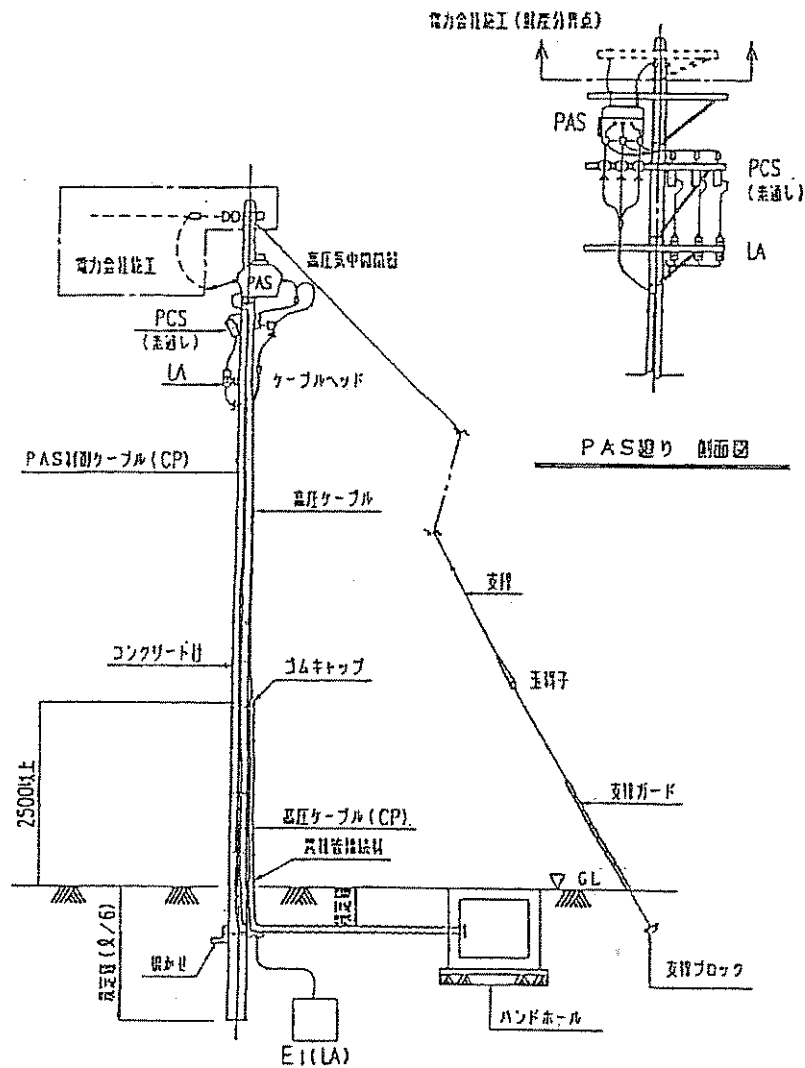
特記事項

1. 発信器の取付位置を移動することがあるので、専用ケーブルの長さを考慮する。
2. 手すり越しの取付けについては、保守点検時の取り外し及び取付けが容易な構造とする。
3. パイプスタンドは、溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ 35)
4. 浸漬式の検出器は、太陽光の影響を防ぐため浸漬深さを0.5m以上とする。

図面名称

MLSS計
据付図

図面番号



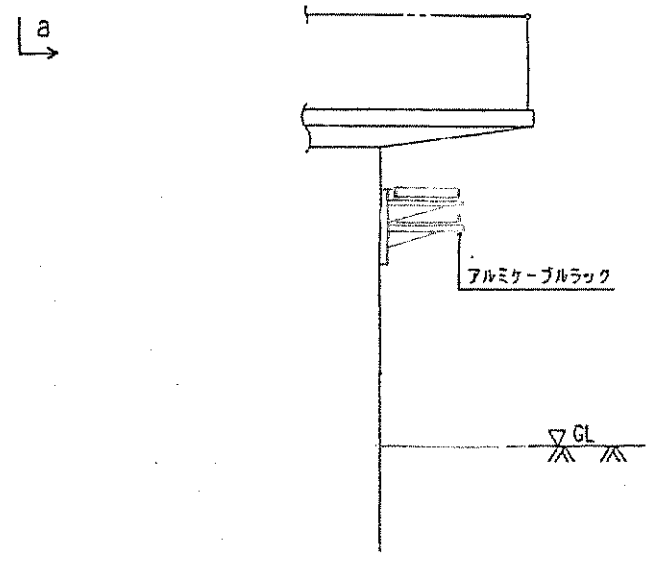
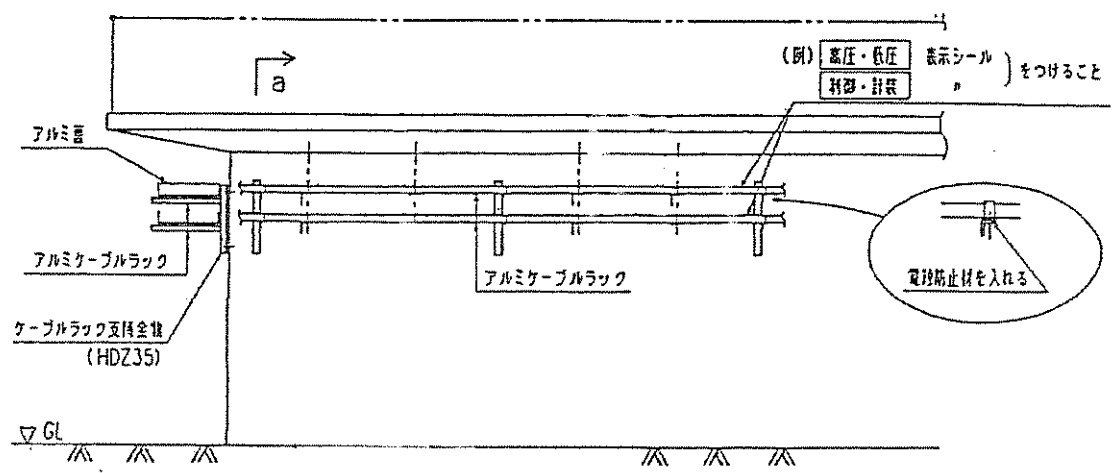
特記事項

1. 電柱立上配管の高さ及び地中配管の埋設深さは規定値とする。
2. 支線は必要により施工する。
3. 電柱の強度計算を行う。
4. 接地の施工 (LAは別途必要)を行う。

図面名称

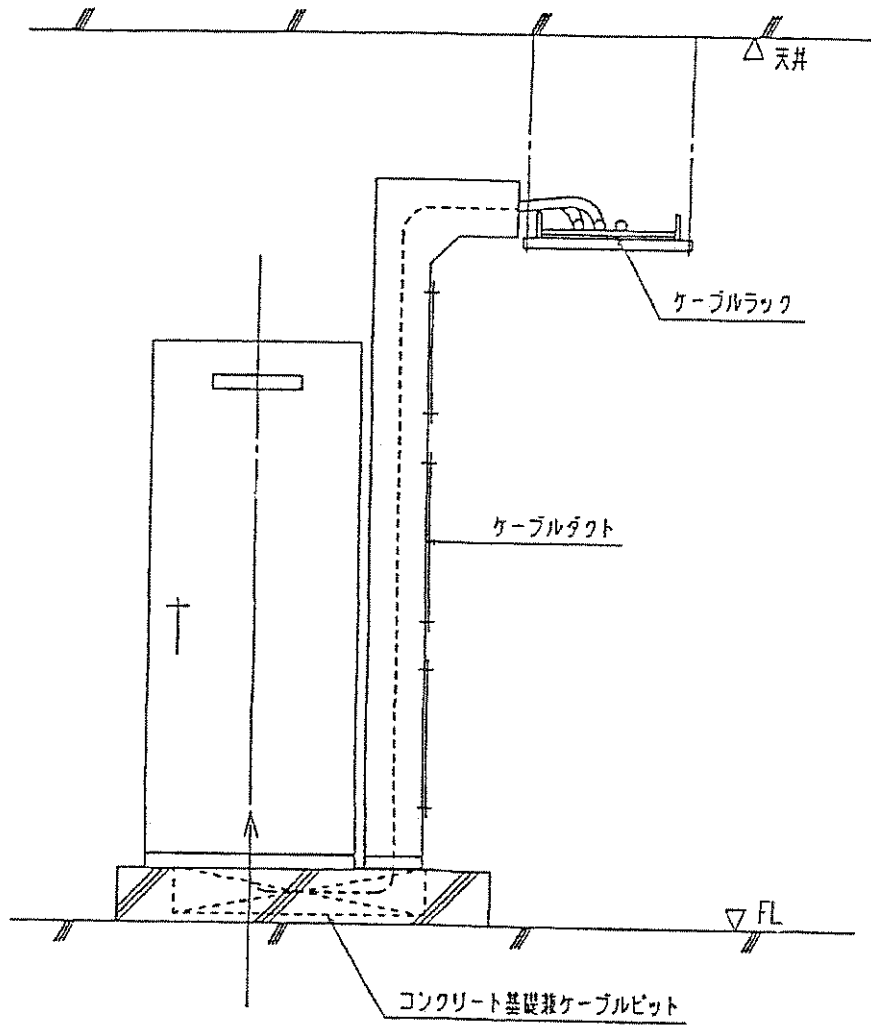
装柱要領図
(高圧受電)

図面番号



a-a 矢視

<p>特記事項</p> <p>1. 沈殿池・沈澄池等側壁の配線要領を示す。</p> <p>2. ケーブルラックにはカバーを取付ける(上段取付、下段は無し)</p>	<p>図面名称</p> <p>池側壁 配線要領図</p>
	<p>図面番号</p>



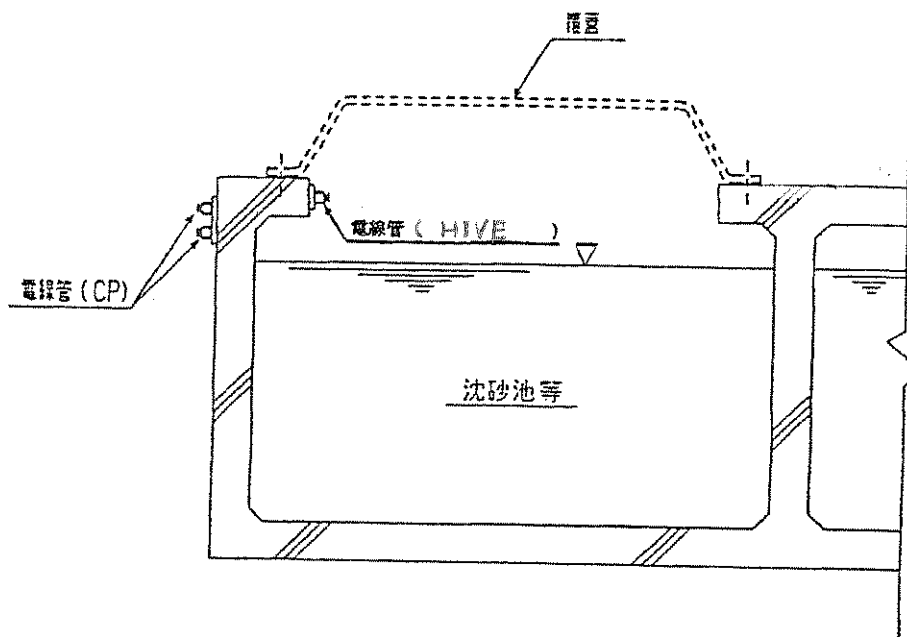
特記事項

1. ピット深さはケーブルの曲がり分(6D)を考慮する。

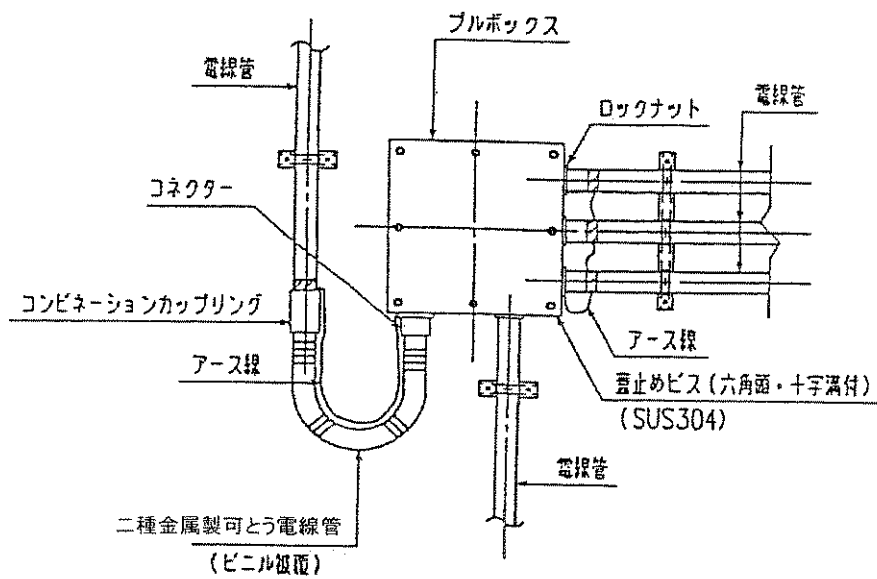
図面名称

自立盤への
配線要領図

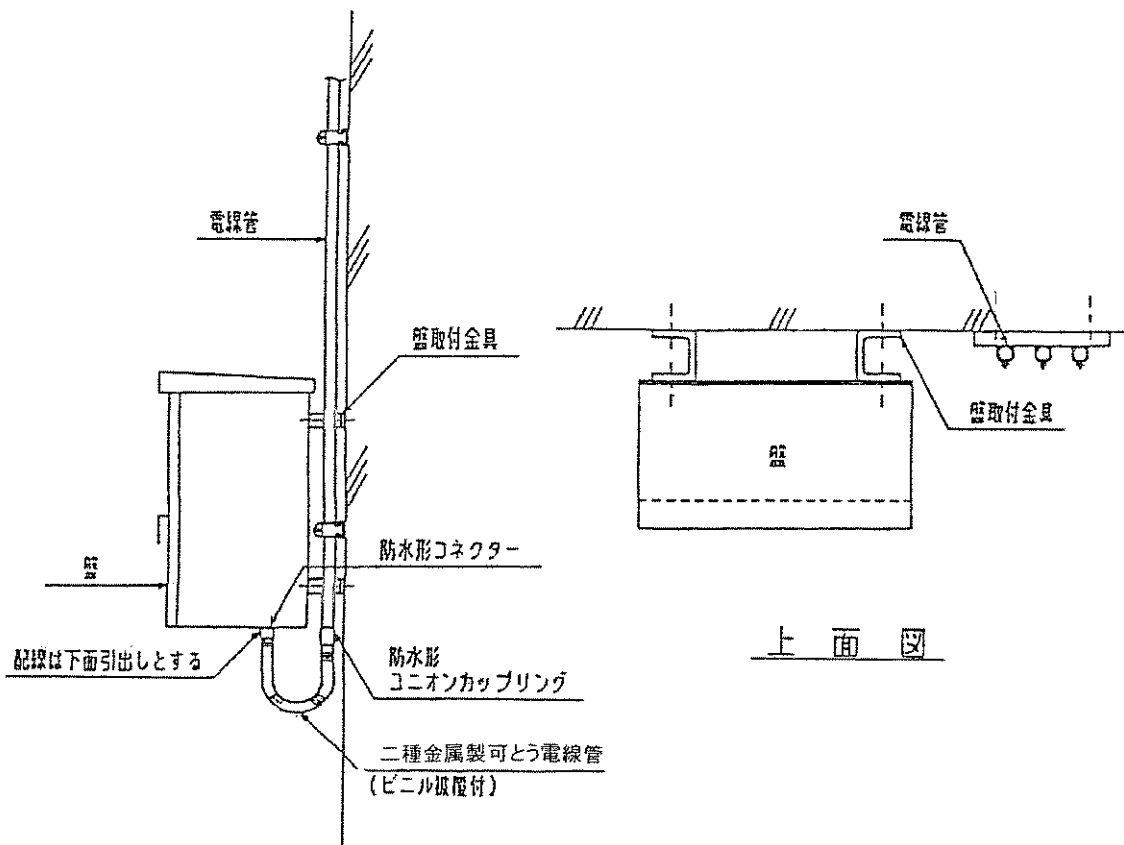
図面番号



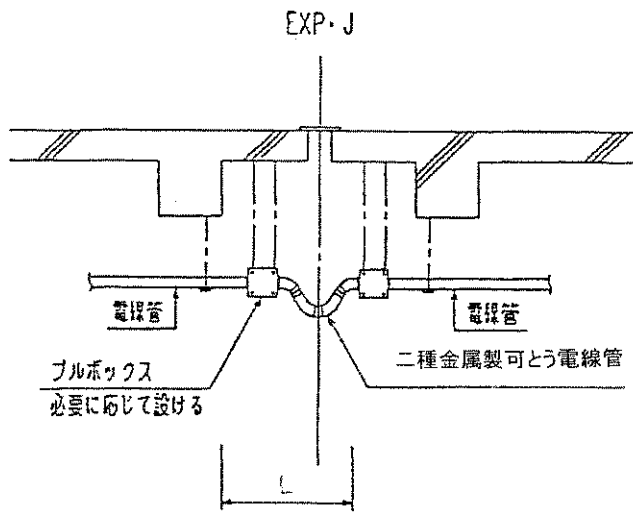
<p>特記事項</p> <p>1. 沈砂池、沈殿池、反応槽、沈澄池など池の水に近いところでの配管及び プルボックスの材質は、樹脂製とする。なお、ボルト類はステンレス(SUS304) 製とする。</p>	<p>図面名称</p> <p>屋外(池廻り)の 配管要領図</p>
	<p>図面番号</p>



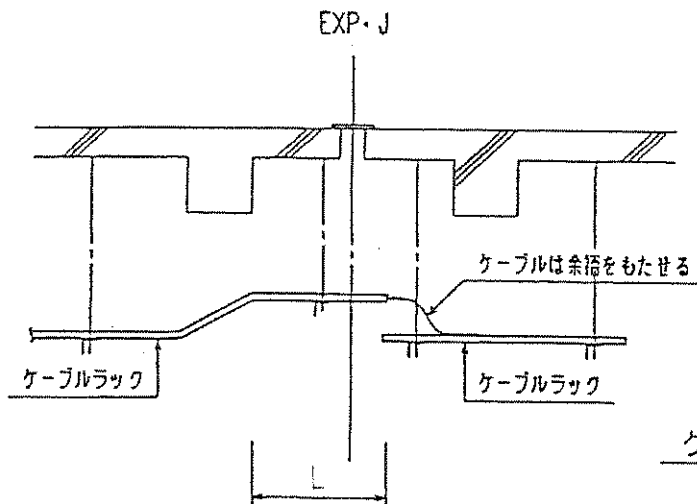
<p>特記事項</p> <p>1. 材質について、屋内用は樹脂(塩化ビニル)製とし、屋外用は鋼板製で溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ 35)</p>	<p>図面名称</p>	<p>プルボックス 接続要領図</p>
<p>2. 屋外用プルボックスには上部より配管を接続しない。</p> <p>3. 屋外用プルボックスには、下面に水抜き穴を設ける。</p>	<p>図面番号</p>	



<p>特記事項</p> <p>1. 屋内の地階等で壁面に漏水の恐れがある場所にも適用する。</p>	<p>図面名称</p> <p>屋外壁掛形盤 配線引出要領図</p>
	<p>図面番号</p>



電線管の場合



ケーブルラックの場合

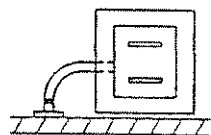
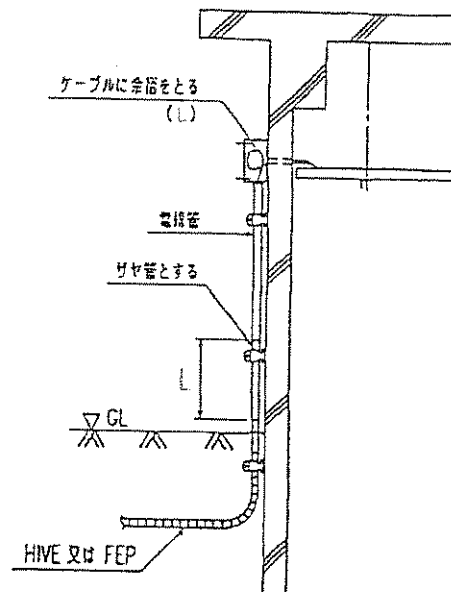
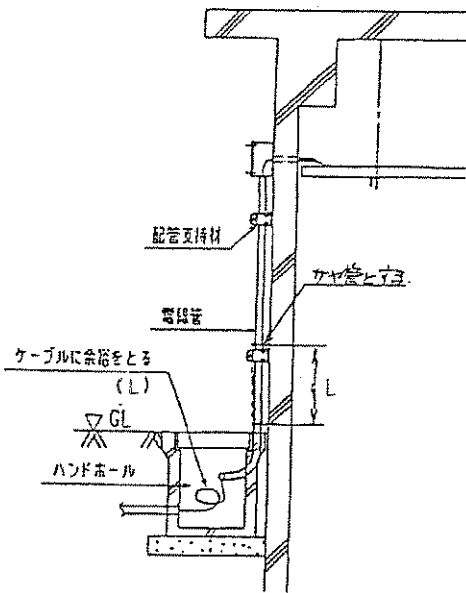
特記事項

1. エクスパンション・ジョイント部は、配線に余裕を持たせる。
2. 「L」は1m程度とし、必要により余裕を持たせる。

図面名称

エクスパンション
・ジョイント部の
配線要領図

図面番号



平面図

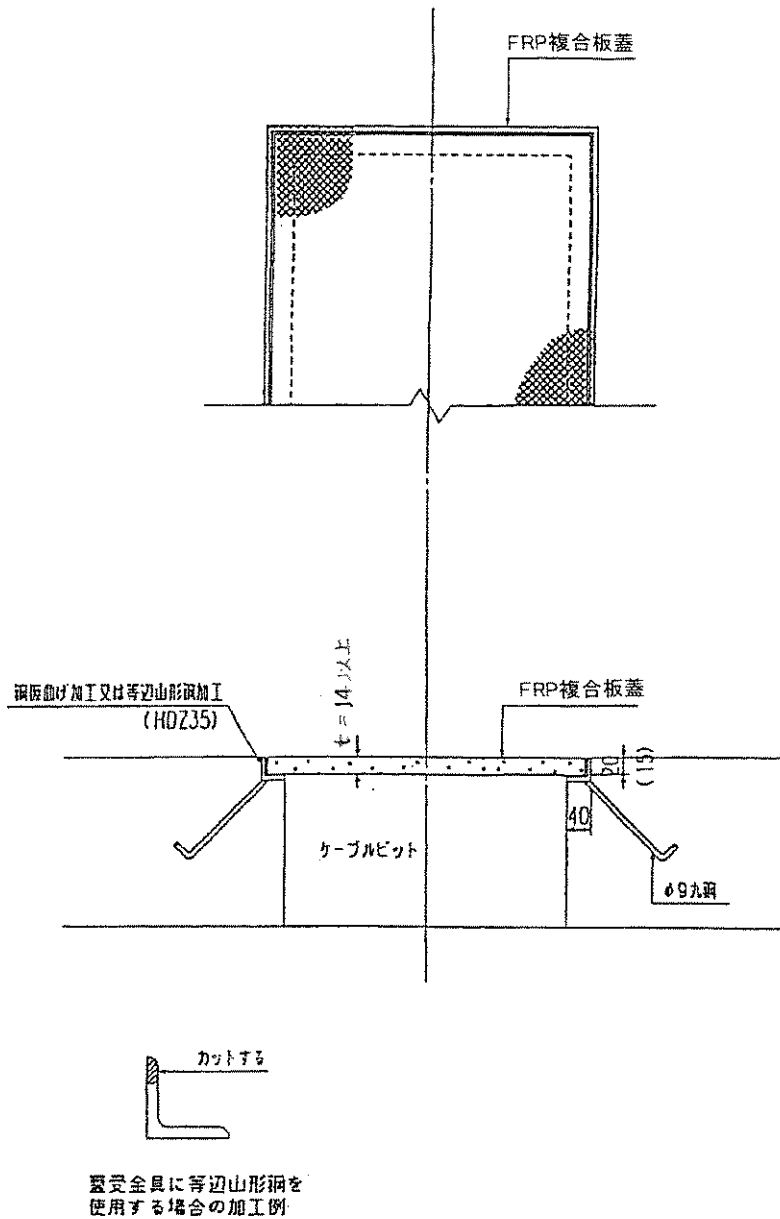
特記事項

1. 地盤沈下によるケーブルの損傷を防止する。
2. 「L」の寸法は監督職員と協議の上決定する。
3. 壁貫通高さは、防潮高を考慮する。
4. ハンドホールの施工要領図は「3-44」を参照。

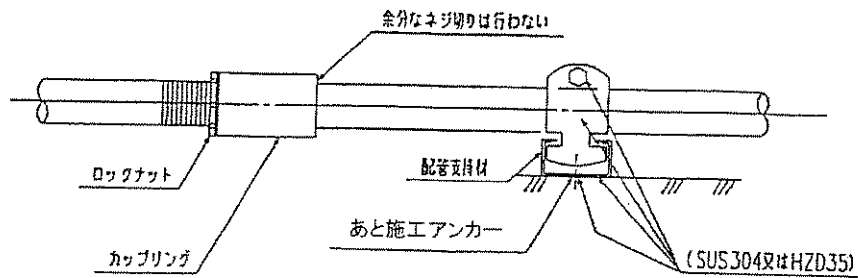
図面名称

地中電線管
立上要領図

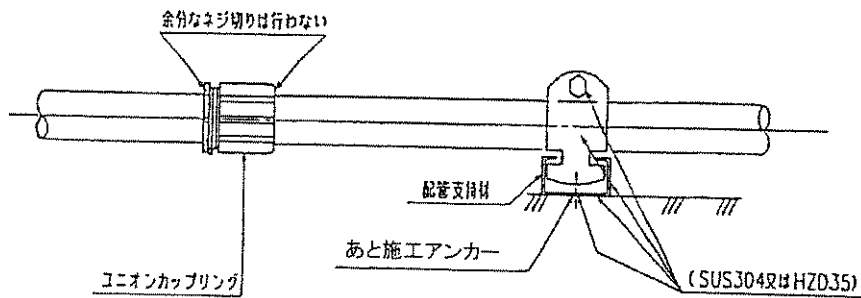
図面番号



<p>特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 蓋の荷重条件は、3.5kN/m^2とし、たわみ量は、$L/300$(Lはスパン)とする。 蓋の1枚あたりの質量は、原則として最大20kgとする。 受け枠にゴムパッキンを設ける。 取手は、ステンレス鋼とし、床面より突出しないものとする。 蓋を分割する場合は、落とし込み形(取り外し式)受け枠を設ける。 	図面名称	ケーブルピット 施工要領図 (FRP複合板蓋)
	図面番号	

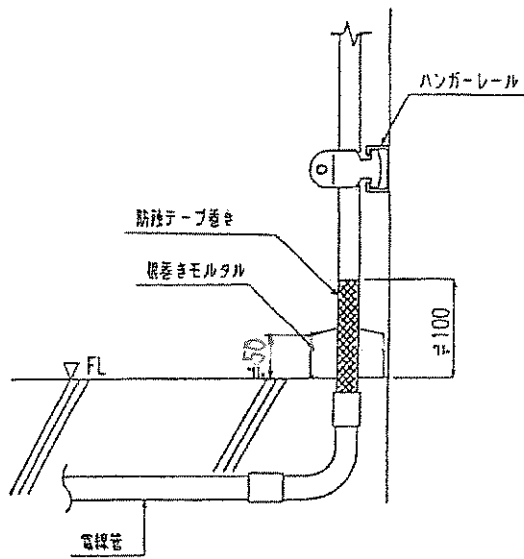


送りネジ工法の場合

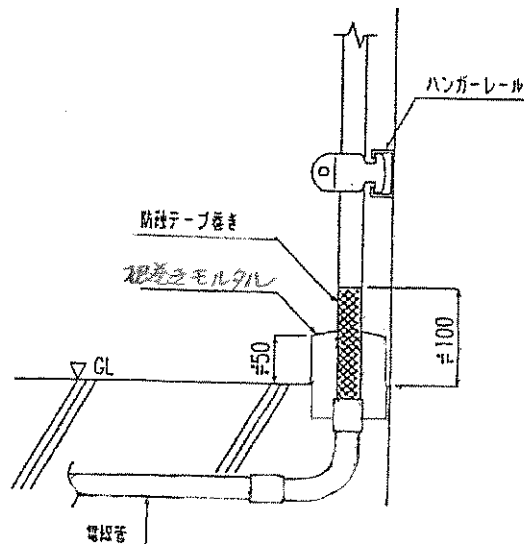


ユニオンカップリング工法の場合

<p>特記事項</p> <p>1. 電線管のネジ切り部分等の発錆を抑制する。</p> <p>2. ネジ切り部及び曲げ加工部分は、さび止め塗装を行う。</p>	<p>図面名称</p> <p>屋外及び多湿場所での電線管の発錆抑制施工要領図</p>
	<p>図面番号</p>



屋内の場合



屋外の場合

ハンガーレールの端部の処理方法

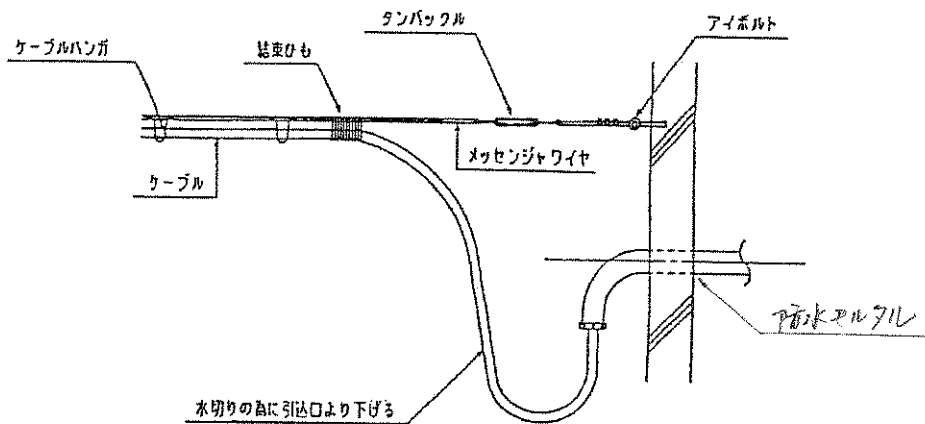
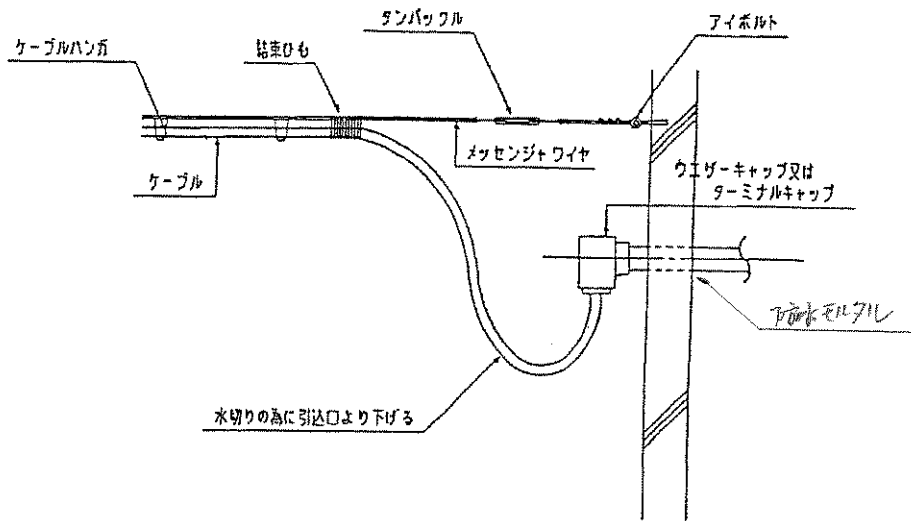
人の触れる恐れのある場所では
切斷面をエンドキャップ等で
保護する。

特記事項

1. 床面立上り部の電線管の腐食を防止する。
2. 屋外及び屋内の地階等で壁面に漏水の恐れのある場所に施工する露出電線管はハンガーレール等で取付面より浮かして取り付ける。

図面名称 電線管立上り部配管要領図

図面番号



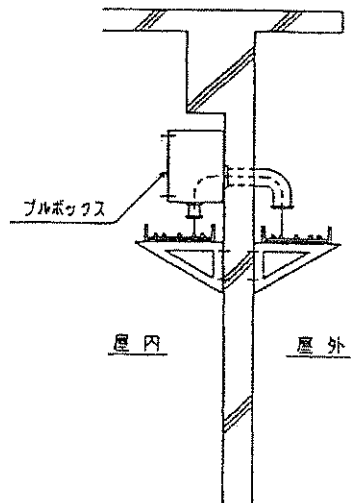
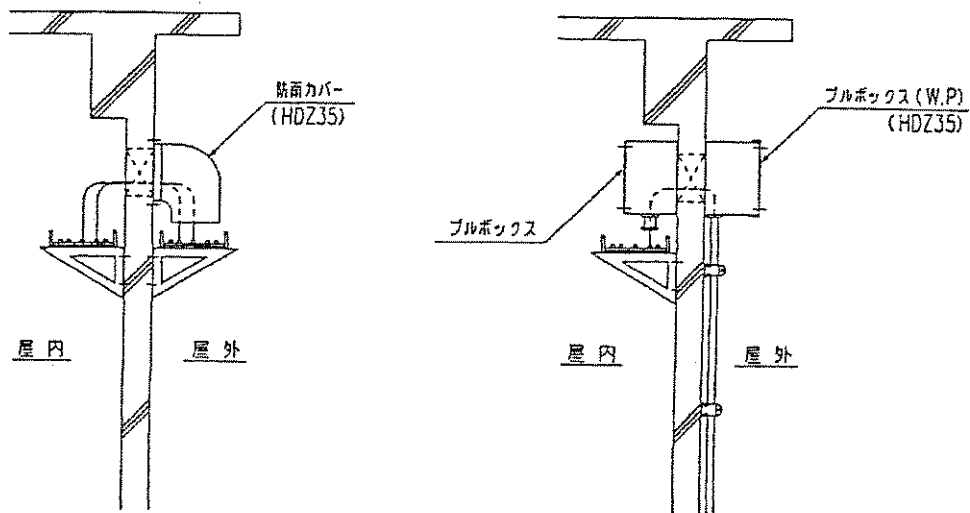
特記事項

1. 架空配線より建屋内に雨水の浸入を防止する。

図面名称

架空配線
建屋引込要領図

図面番号



ケーブルの本数が少ない時

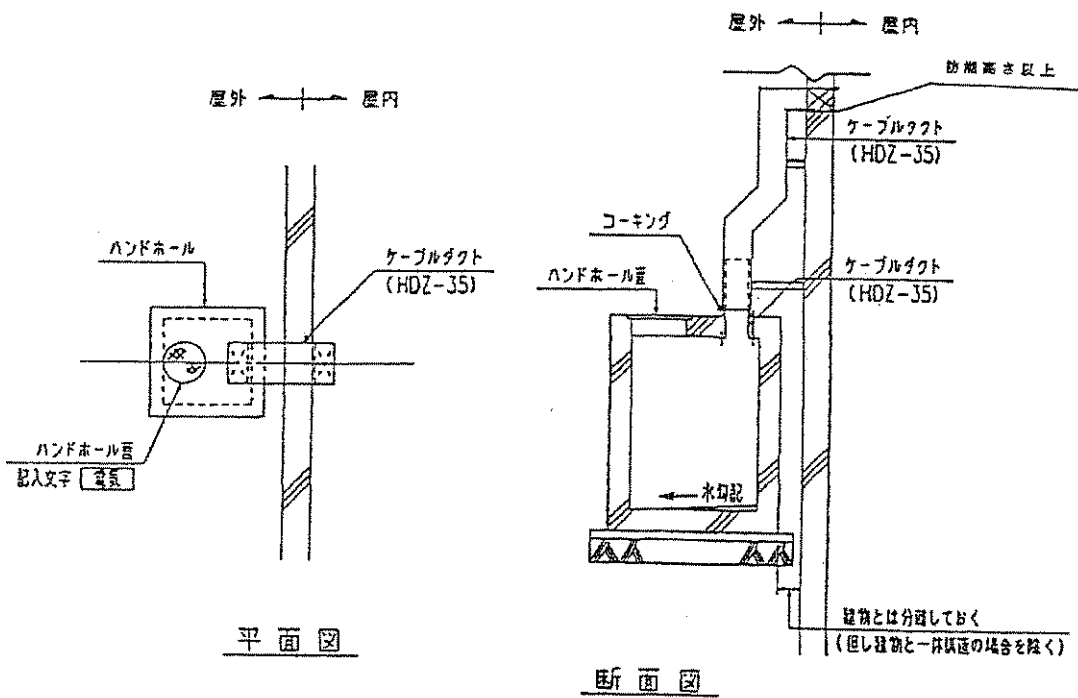
特記事項

1. ケーブル 貫通箇所より雨水の浸入を防止する。
2. 防雨カバー、プルボックス等の壁面部分はシールを施す。

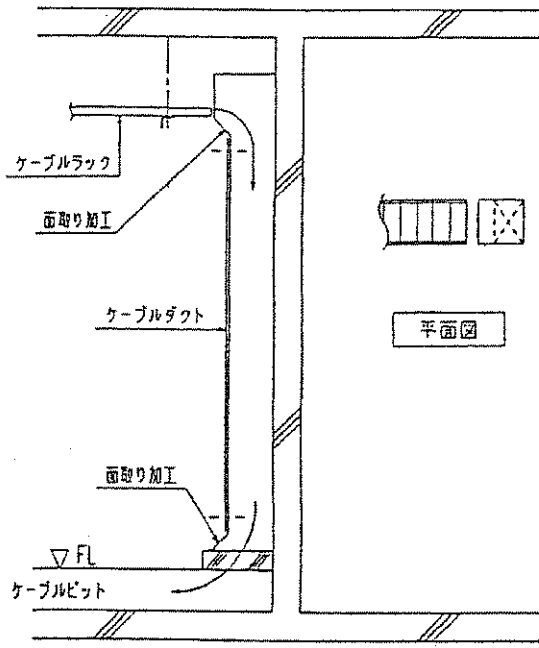
図面名称

ケーブル外壁貫通部
配線要領図

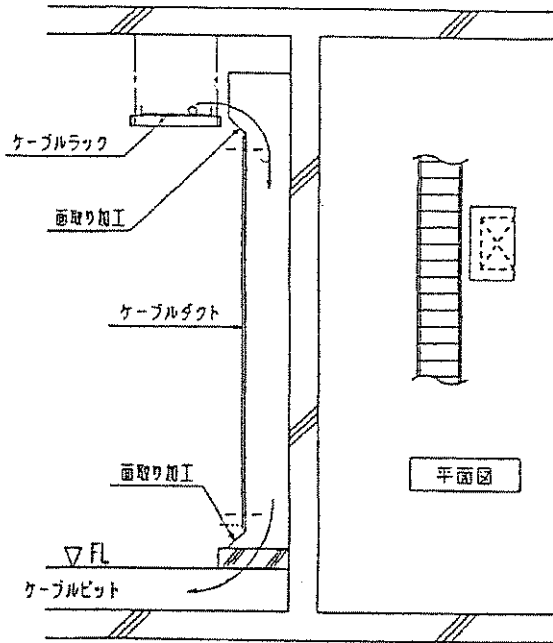
図面番号



<p>特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドホールは、建物と分離してせっちする。 2. 耐震不等沈下を考慮し、ケーブルダクトはハンドホールと直接つながらない。 3. 壁貫通高さは、防潮高を考慮する。 4. マンホールの施工要領図は「3-44」を参照する。 	<p>図面名称</p> <p>ハンドホール～ 屋外ケーブルダクト 施工要領図</p>
	<p>図面番号</p>



ケーブルラック端部より引込む場合



ケーブルラック側面より引込む場合

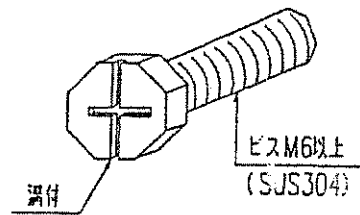
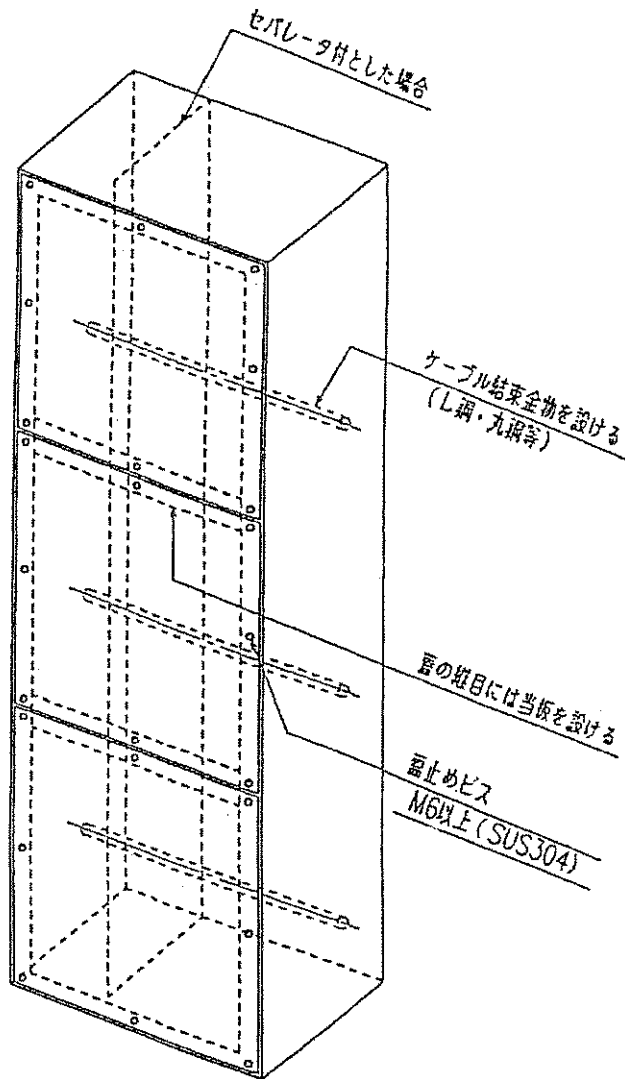
特記事項

1. ケーブルダクトの端部は面取りを行い、ケーブルの損傷を防止する。

図面名称

ケーブルダクト
施工要領図

図面番号



蓋止めビス詳細図

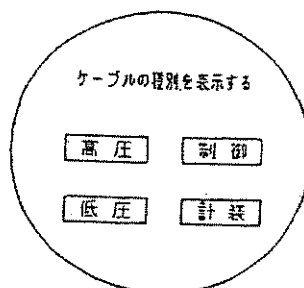
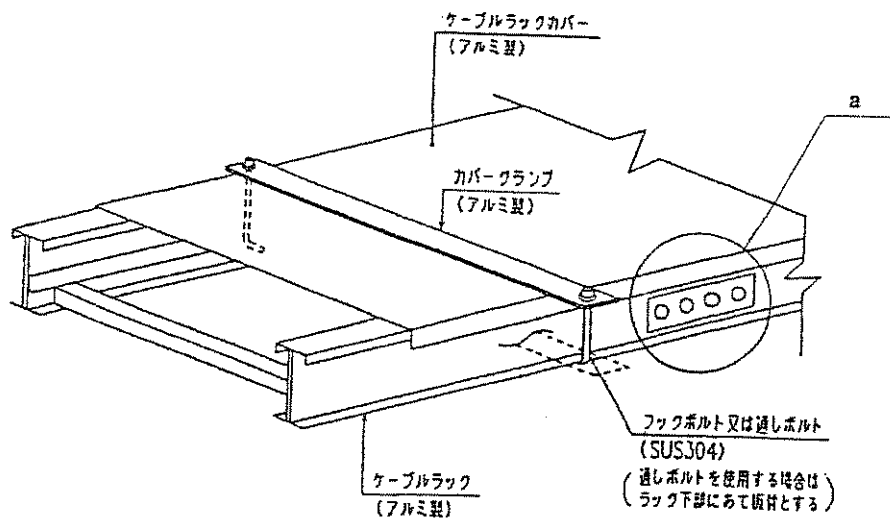
特記事項

1. 材質は鋼板製とし、屋外用については溶融亜鉛めっきを施す。(HDZ35)
2. 蓋が大きくなる場合は取手を設けるか扉式とすることが望ましい。
3. 必要な箇所(階高さ毎に1箇所程度)に扉式の点検口を設ける。

図面名称

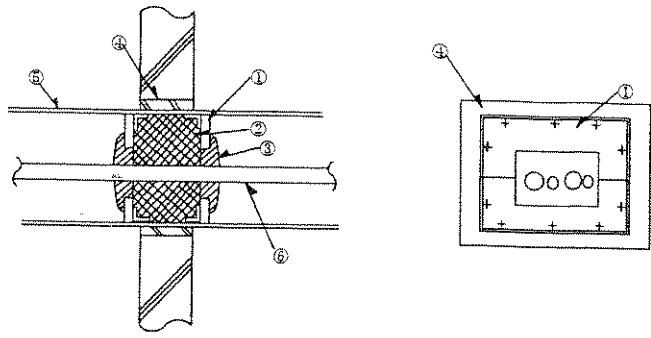
ケーブルダクト
製作要領図

図面番号



a 部詳細

<p>特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 屋外ケーブルラックには、カバー(アルミ製)を取り付ける。(多段の場合は上段のみ) 支持金物は溶融亜鉛めっきを施すか、ステンレス鋼(SUS304)製とする。なお、必要によって電食防止処置を行う。 接続部、自在継手部及びエキスパンション部は、渡りアースを設け電氣的に接続する。必要によって電食防止処置を行う。 終端部には、エンドカバー又は端末保護キャップを設ける。 	<p>図面名称</p>	<p>ケーブルラック 取付要領図</p>
	<p>図面番号</p>	

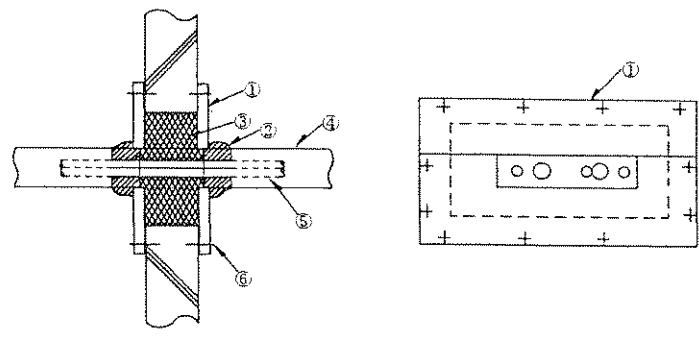


断面図

正面図

番号	使用部材	番号	使用部材
①	耐火仕切板 (ケイ酸カルシウム板)	④	モルタル
②	ロックウール繊維	⑤	金属ダクト
③	耐熱シール材	⑥	ケーブル

ケーブルダクト配線の場合



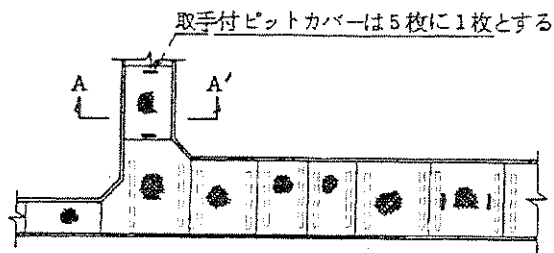
断面図

正面図

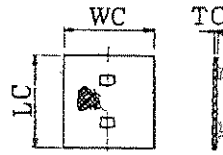
番号	使用部材	番号	使用部材
①	耐火仕切板 (ケイ酸カルシウム板)	④	ケーブルラック
②	耐熱シール材	⑤	ケーブル
③	ロックウール繊維	⑥	あと施工アンカー

ケーブルラック配線の場合

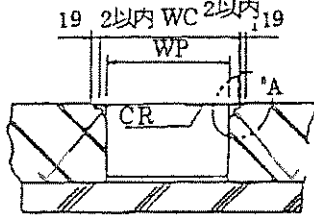
<p>特記事項</p> <p>1. 防火区画を貫通する場合は、関係法令(消防法、建築基準法)に準じ耐火処理を行う。</p> <p>2. 処理を行った部分は、性能評定マーク若しくは工法表示ラベルを貼付する。</p>	図面名称	防火区画処理要領図
	図面番号	



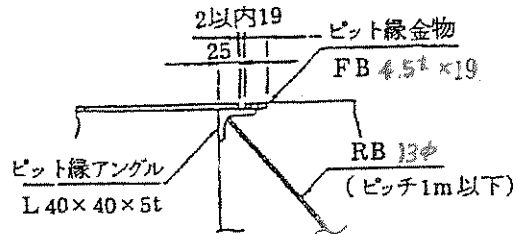
取付平面図



ピットカバー製作図



A-A断面図



'A'部詳細図

縞鋼板ピット蓋寸法重量表

単位(kg)

配線 ピット幅 WP(mm)	板厚		ピット蓋寸法(mm)			
	TC	幅 WC	長さ LC			
			400	600	800	1000
200	4.5t	250	4.1	5.9	8.2	9.8
300		350	5.6	8	11.2	13.4
400		450	7	10.3	14	17
500		550	8.5	12.5	17	19.4
600		650	12.5	17.3	25	26.5
700		750	14.3	19.7	28.6	30.3
800		850	16.3	22.4	32.6	34.7
900		950	18.3	25.1	36.6	
1000		1050	20.2	27.8		

太線内は、補強アンクルを含む重量とする。

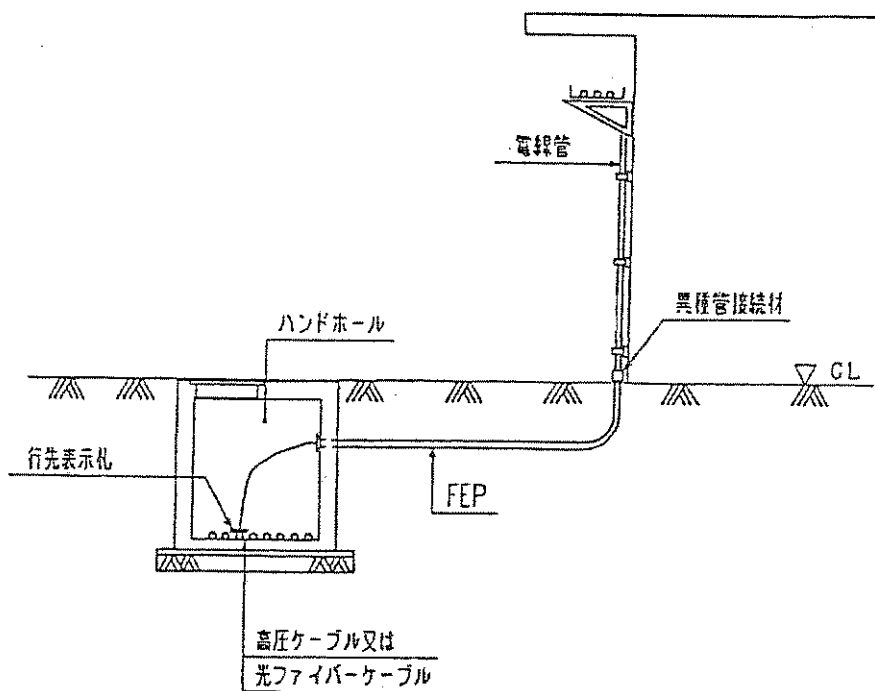
特記事項

1. ピット蓋の最大重量は20kg/枚程度とする。
2. ピット蓋は、原則として5枚につき1枚を収納式取付とする。

図面名称

ケーブルピット
(縞鋼板)
施工要領図

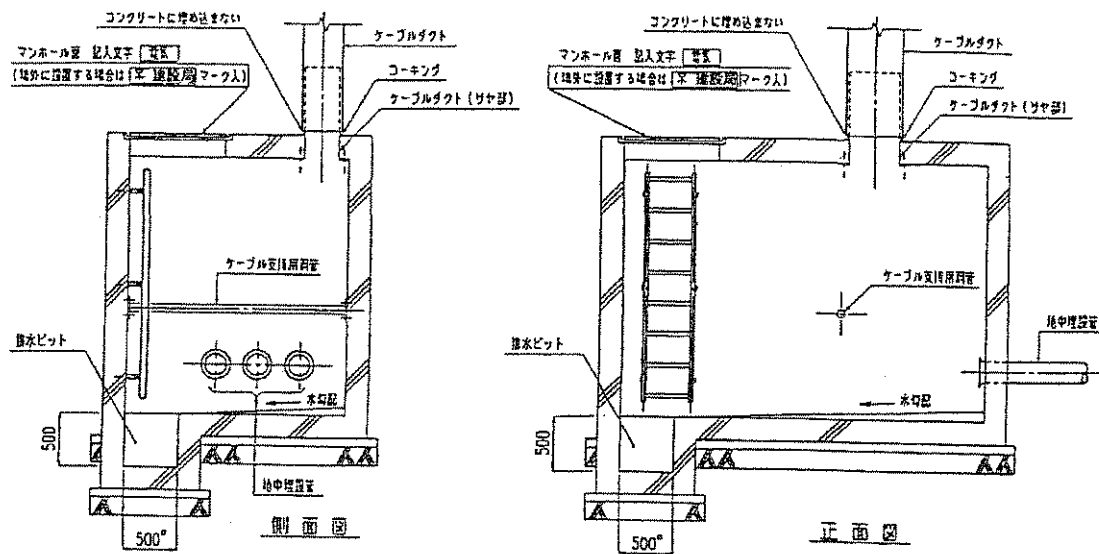
図面番号



6600V EM-CE ○○^D-3C
 待高受電所～第1ポンプ室 No. 1受電

行先表示札 記入例

<p>特記事項</p> <p>1. 行先表示札はアクリル製で「2. 0t」以上とする。</p> <p>2. 本表示札は、高圧ケーブル及び光ファイバーケーブルに適用する。</p>	図面名称	ケーブルの 行先表示要領図
	図面番号	



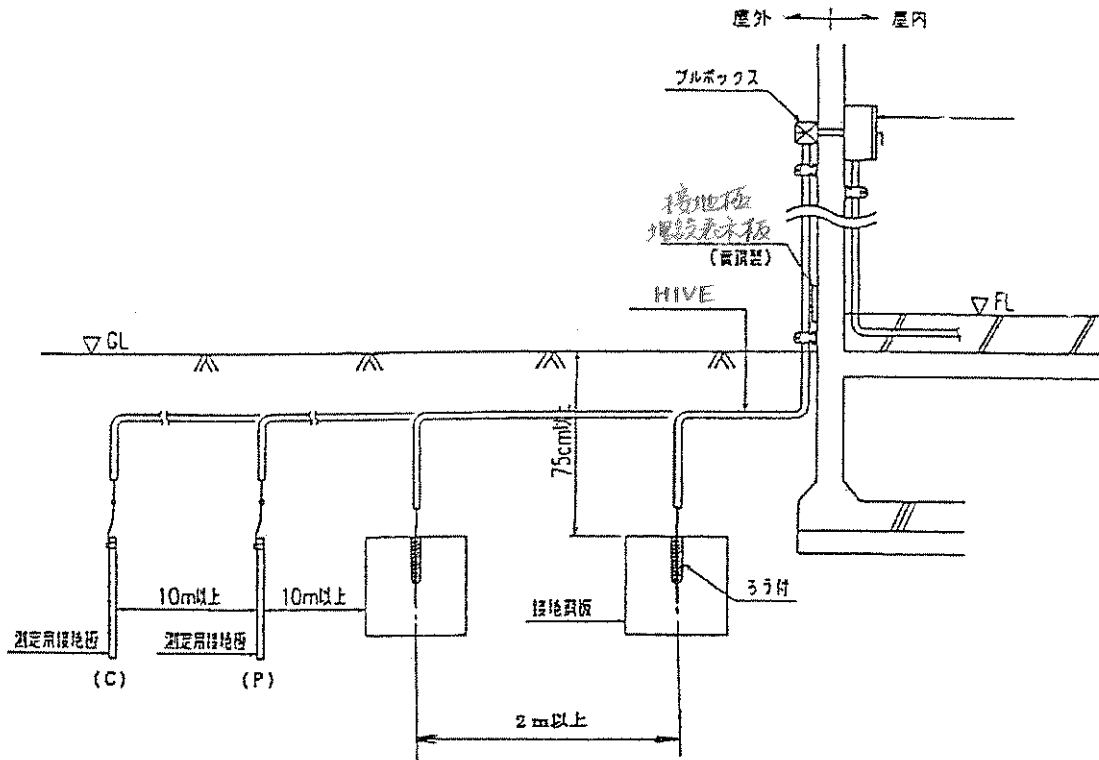
特記事項

1. 上部には、鑄鉄製防水ぶたを設ける。
2. 内部は、防水モルタル仕上げを行う。
3. 底部には、排水用ピットを設ける。
4. マンホールには、耐腐食性の優れたステップを設ける。

図面名称

マンホール及び
ハンドホール
施工要領図

図面番号



特記事項

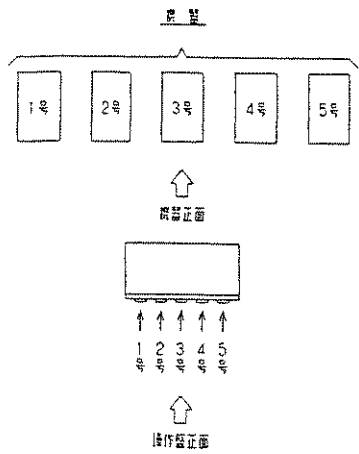
1. 接地端子箱は原則として屋内に設置する。
2. 壁貫通部は、防潮高さを考慮する。
3. 接地極埋設表示板は、壁面に概ね「GL+500」の位置に取付ける。
4. 接地極の形状は、次のとおり。

A種(C種): 900 × 900 × 1.5t B種: 500 × 500 × 1.5t D種: 500 × 250 × 1.5t

図面名称

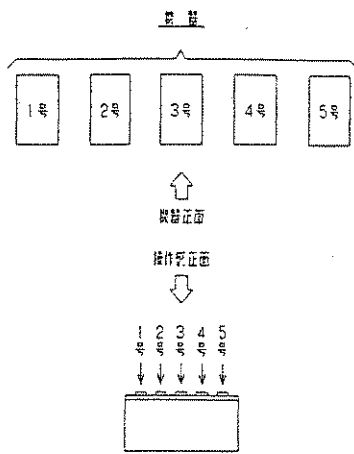
接地極埋設
要領図

図面番号



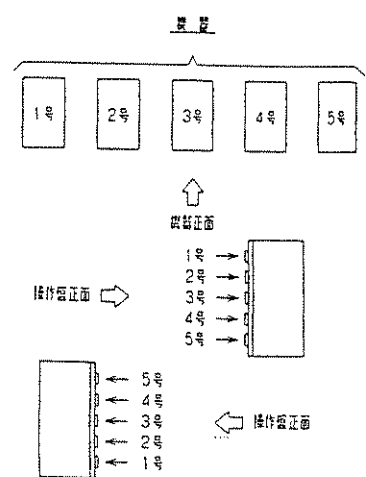
操作盤正面が機器正面と同一の場合

A



操作盤正面が機器正面と逆になる場合

B



操作盤正面が機器正面と直角になる場合

C

特記事項

1. 操作スイッチの配列を機械の配列に合わせ、誤操作を防止する。

図面名称

操作盤スイッチの
号数表示要領図

図面番号